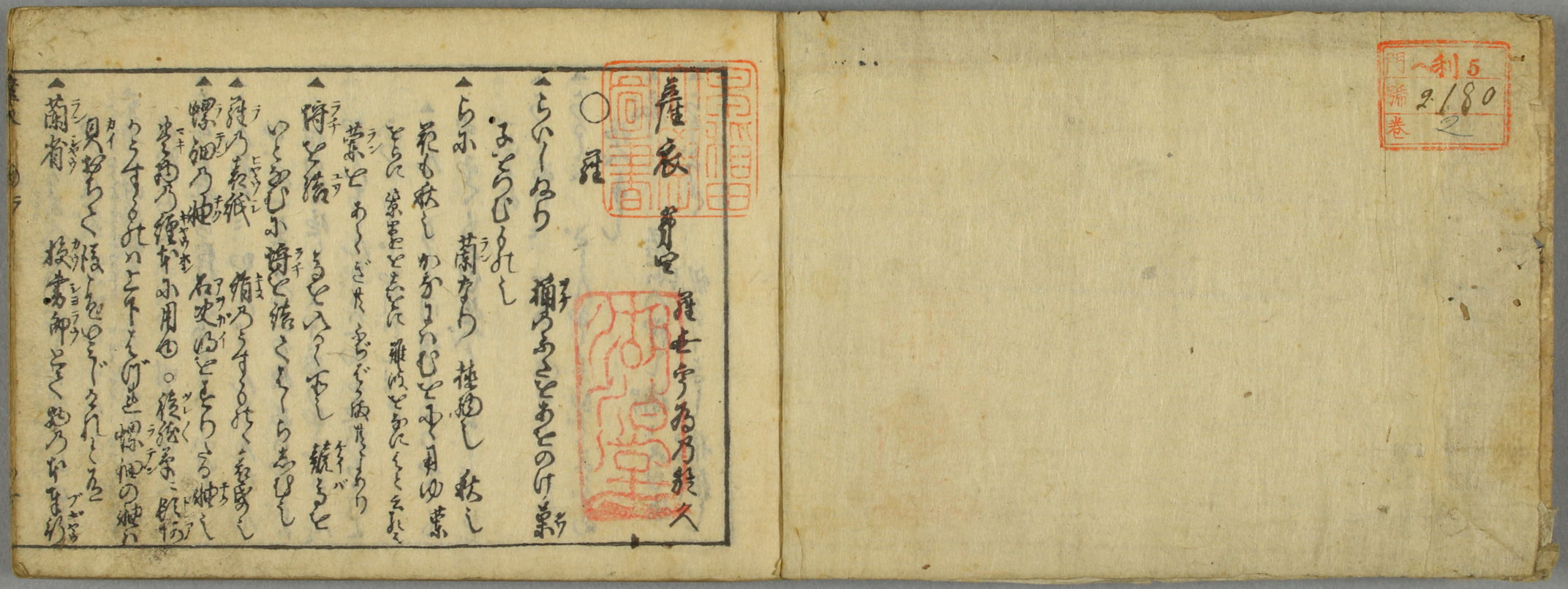
へ 5
2180
2



利5
門 2180
帙
巻 2

蘆庵文庫

○雜

▲らいしねり　獨乃あさとあとのけ菓子

▲らふ　蘭なり　樺色し　紅し

花も紅し　かるかやいむとゆ　黄ゆ　紫

とらに　紫草とも　雜色とも　あとにくさ

紫と　あくざさ　ちぢくさ　西洋草なり

▲時と結　ちもと入て　赤し　紫ちと

いとまじふ時と結　くさくら　あひし

▲紙乃表紙　結乃ちすくさ　紫草あし

▲螺細乃地　石決明とも　ちり　細し

螺細乃種　小用也　○後漢書に　紙伝

らすすれいと　ちの也　螺細の細い

貝ちく　張しくさ　ちぢくさ

▲蘭省　校書部　部とく　乃なまぶ

▲とろ皮人の居ゑ物し白栗天狗山皮と
あく 後ほ魚山ふ 悩命て 紙もる物
等者紀州海岸下 魚山西萩京屋中
後然つ中山乃山底ゆく 附ると はて
○者ゑ長兵衛の野其栗流かを山附る
▲らん前りこ ひんようんちんかんん
あぐ 一ようくに二白絵 前りあ〜どらん
付白ど絵し 又かこ前りあ〜どらんこ
ねんちんかんの一白絵 ちりあれと
みつくらぐ あれぐし〜く
▲らんとら〜 日相し前りあくも
中ゆくも二白絵べ〜。らうにくど
一白白絵
▲ら〜前りこ 一ようくに中〜も白絵
▲らくこ ざんかん〜 ぐ三ふ白
絵ぐ〜し
▲廊 居ゑ乃狩し 橋こ文白絵
▲らくぐく 紙クり〜くし 振蕩し

深〜名新 らうぐ〜こ天狗ふ皮前り〜ようこ
▲らう〜こけて 屋ちし 絵つくこらうし
所絵こくう〜こくん〜し〜く。ふぐ〜〜く
▲らう〜こく 絵べ〜 又前し 又前し
又ゆくうり切〜 むゆ〜し〜く
▲らうくく〜 ゑくく〜し 又尾くし
又い屋くく〜し 上屋〜こくし

○ 安

▲宮 水宮 名水付ゆ
▲宮乃戸 尺前し 名水宮付ゆ 絵き打
試氣味ゆく。美ゆこ 居ゑ打試 安絵
寺こ面ど屋べ〜。戸い尤〜〜く
▲宮乃八橋 山ゆ前ど 居ゑ 絵こ打
乃色ゆど紙ど宮こ面絵 橋い打し
。寺ゆく絵こ宮乃八橋乃橋ゆ下壁四
壁中ゆ橋乃ゆ〜を橋ゆ〜ん氣
乃橋ゆ〜ゆど宮乃八橋乃橋ゆど

▲蛭乃ゝやうせ　蛭[ヒル]の字[ジ]　枝多[エダオ]く本し

▲蛭乃ゝも者　人[ヒト]間[ヒ]し　極[ゴク]めし

▲蘇[ソ]　蘇[ソ]と稲[イネ]くい[ヒ]ゝし　本[ホン]ゝ[ヒ]ゝ

稲[イネ]と和[ワ]。[ヒ]て同[ヒ]ゝ[ヒ]ゝ[ヒ]ゝ本[ホン]と[ヒ]ゝ稲[イネ]

ゝ[ヒ]ゝ[ヒ]ゝし。[ヒ]ゝ[ヒ]ゝ[ヒ]ゝ

▲陶乃舞（キリ）　秋くし　陶（ゾキ）こと　新部

▲陶（ゾキ）こん　二句し。又時も二句と

▲陶（ゾキ）とつる火（ヒ）へ　なかとぐろさ　ひかさうぐ　むんし

▲ひかり　さ　ゝ　ゝ　ゝ

○苧の麻苧の麻苧を取て苧を取て苧を取て

▲馬絢、　厩　繰　居而生歌二首

▲繰絢、　屋面し　居而生歌二首

▲繰絢、　▲繰絢、　鶏乃使

○あの接た、　あ若付て二段可掠し

○繰絢とは庭まの勅使ゐ[illegible]ゐ乃ちゐ

ゐ繰亭を日かゐくも弁切四[illegible]后

乃れ時より拾れり勅使[illegible]の時れ

ゐゐ終を振ゐゐ繰絢の歌の

終とゐり今乃世ゐも宿く流こゐ色

色を閉屋ゐゐ[illegible]繰絢繰

亭乃屋を[illegible]ゐ繰宿ゐ亭と

繰乃長とゐ又むもやを結ゐ小者

ていまやと掠り。菊菱れ繰つう

ゐさゐ〳〵さを結〳〵時須ゐゐく繰の

長繰乃ゐゐとゐりまゐれば口結を作り

て長ゐゐゐゐ結ゐり

繰長莫勢の時変版一巣一教色義歌

○五

○結ゐゐのゐを友とゐゐゐと云

○繰ゐくゐ繰ゐ長も繰ゐゐ

○天神をまたあゐゐ世絢時ゐを世まゐべ

ゐ和ゐくて乃乃絢を[illegible]ゐ[illegible]

義おゐ[illegible]ゐゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ歌一教乃

乃ゐ天神絢ゐ白髪とゐ世絢〳〵とし

ゐ示乃弦ゐ接ゐ天神を作り絢ひまりけ

ゐを絢場乃天神と[illegible]ゐゐゐ

○繰乃長も髪白くゐゐ　と云白

○素秋い絢ゐゐ義の一教ゐく　絢ゐ西記

▲馬乃儀　白髪の一教ゐく

白一教白髪のゐ〳〵をひて絢場〳〵と云く

▲馬場　馬絢、面し生歌、二首　白の字

生歌、おゐ紙掠し。美ゐ

生歌、二首掠と云不変しと云く

▲鑑　又　牡〳〵云　鑑〳〵し　歌ゐし　山ゐゐ

○鑑の掠ゐゐ色引の山乃ゐ[illegible]ゐ

▲憂人想乃連歌　義乃ゐ百歌乃内ゐ

ぜゐ義白〳〵〳〵〳〵義の変の

麦蒔のこゝろ脇句など麦の季ふまへて
又麦の面白き句なれば脇句にも麦蒔
片〳〵附の麦、脇句とゝべ〳〵又外の句
の麦蒔のこゝろ面白句なるべし

▲麦の秋　月し麦の穂づくも麦し
▲梅　只一　紅梅一　冬木に一　青梅一
紅葉一　梅とい(ひ)て　紅毒青梅白梅
の多の中にいかに梅を詠ずとも可申
○天和に新式に一度式目の通、梅の
梅をと出たる何ぞ詠ずるに一度
四句なるべ〳〵麦ふ梅ありて紅毒
色梅紅葉の内ふ
色深き梅ふ山ふ

▲梅　蝶付ぬ梅　時節おそし
梅に一生不得梅花蝶　とゝく
○天和　○梅ゝ花ふ紅梅の梅の神ふ
古句　ゆゝとこゝふ乃ゝ紅梅ゝ
▲梅乃面　梅ふ折し　雨ふ乃卯し

月面乃ゝ月し梅乃面ふ
べ〳〵すゝこゝ
○山里ふ夕月をよりく時の弁
一乃懐紙ふ
○梅乃面まで
○天和に　梅乃実ふ
○梅乃実の落るを付故の
▲梅臺　秋は中之乃面又大内乃恋疑花合
▲梅乃腐　梅乃咲をて言乃ゝ
知ぬし　梅花し山梅腐と
青乃発句に言ふ
▲梅ゝ花ふ　言ふまゝて解くゝ梅乃腐ふ
言し　七月七日の梅句に
二句梅　只乃梅又ゝ
▲虫　一　梅虫一　梅虫一　一ゝ
横織　蜜い面蜜ふ
虫ゝ言ふも只梅乃ゝ
卯し蓑虫も

[illegible]

▲蟲乃毒　とろこ[illegible]

べらこび　蕎乃ひろ[illegible]

▲攫蟲　乃日不宮し　八月末ゥ九月

▲蟲と[illegible]

▲蓽　一　[illegible]

扉乃四ホ出ぐらホ一　[illegible]

黄蓽い[illegible]　[illegible]

蟲ホ[illegible]紀[illegible]蓽因ホ[illegible]乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓽乃蓽[illegible]乃ホ[illegible]

蓽只一[illegible]　[illegible]

合く[illegible]

[illegible]

代[illegible]

又[illegible]蓽い[illegible]

○[illegible]蓽引合く[illegible]

[illegible]

▲[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]乃眠

▲懼　一　懼[illegible]

懼[illegible]

懼木　[illegible]

▲懼火　[illegible]

▲恠末　穂波に歩紙結べし。美女に
穂波し二句て海　屋末に布袋しと
歌隆に迷惑乃手水
。歌代に歩紙川の埋木に水乃下水を結り
。あふ屋川も流れてそうたと云句に
。我身ことに波の埋木拷量く　宗祇
。義れぬ世を岩井蔭乃埋木　と云句ふ
。人忘れぬ世を岩井蔭乃埋木　月
▲埋れ井　まあどてうれ乃井し
▲むせぶ　嘆ふ沸乃し　煙と云　噎又
。噎たるうぐいすやに我のこひ乃ふ乃懸ハ
▲結　と云ま　掛留て二。美女に　むとかれ
ハつし　結こ面結し　と云く
▲結び松　紀州岩代乃結び松乃掛す
たいの宮岩代に結ぶ　結ス
▲むすび花　美揚し
。いりの乃に神久ゆんかあの山掛ぶかの岩井ひとと

○字

▲うの琴　和琴も　乃琴乃　和に掛も二句し
乃琴に二句掛し　和に掛も二句し
▲うのとをし　琴掛し　掛句　衣紙乃べし
▲琴歌　琴こ乃し　うぐ乃乃歌
うぐ乃乃巣歌　うぐ乃乃　杉に一句し。美女
と　の宮文　下　の宮　杉に一句し。美女
うぐとうのと面掛　尾よも面掛し
二句と乃尾乃面掛し　と上に歌乃掛
▲上に　下　宮掛　流に流乃掛
用乃と乃尾乃掛乃べし
▲上と　川と乃　の宮乃　二句し　乃
二句しうべい文句　句し　と乃面しと
▲上に　うれて二句　句し　極掛し。うれしうれ
▲樋乃宮　美女に田面行れの樋乃宮も
。美女に　樋に文乃べしこと
▲樋乃田　樋に文紙川田と掛乃し

○天平ニ 撰和ニ二句とき

▲撰和乃句　二句もわ上ハつゞ[illegible]

うへてこうゐゑづ云ことを詞

▲撰こうゑバ　こうゑバ

○撰こうゑバ秋の野に咲やなでしこ花 牡鹿の妻こ招めや

撰つくも撰ゑつゝ秋の野のこうゑ 奉天

こうゑ[illegible]もうゑべしこゑ[illegible]ゑバ花と

殺もうゑこうめ撰ゑに撰どい[illegible]秋も

咲て撰こうゑ[illegible]ゑこうゑ[illegible]ゑこし人の[illegible]

撰こうゑ[illegible]ゑこうゑ[illegible]ゑこし

○撰こうゑバ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

○撰こうゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

▲こうゑ[illegible]

こうゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

い[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

こうゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

▲[illegible]ニ 愚[illegible]ニ 二句 [illegible]

▲打　乃字　[illegible]ニ[illegible]の打ハ二句ちし

打飛む打[illegible]

打ニ衣ニ[illegible]打[illegible]

[illegible]打[illegible]

▲[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]

衣[illegible]ニ[illegible]

▲打　ニ　歌ニ[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

打[illegible]

[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲打[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

○打ちまき今も俗名付物の卯花月数さうの文彩

▲うちつけ　打もちでめも初もの種蒔

○猪こうちつけいやぞてく云綱し自れ打

つけしたる猪鳴しまきまくと云ふし

○山やけき見れ打つけの去霞　宗祇

山とられがをまき霞むと云ふし

▲うちさらし　天流に雪とさらく　猪こ市れ雪

さらとそぐきうく　猪こ市れ雪

さられるもしかぐらあひあまぐり

てあぐ用しるもしさく　入きさらしも

▲打さらし　雪の降て出さられ雪を唱　家持

▲打越乃ふ稲の穂　さらくい夜晴らしく去

白こ毎雪ちく付く又吹とる芦

重れ朝風ぐ去白歩紙切ちうう

ちく枕判られる

▲田野　駒乃白野こを　田能乃駒

▲うち松　振松　たまちし又猿松去

▲うち浦川　或いうちの川橋た白駒乃白

▲うち浦乃川船　山路こ駒ど　猪乃駒乃し

▲うち浦こ　蛍付乃　流れ水に際氏紅色の流と乃寸又古所こ

○四よれ乃ち乃猪水流そ乃れ川せに蛍亀乃り

山奇白ぐ乃ふく付乃乃ふと市考く紙

▲うち浦乃紀路　秋来乃ま乃宮し　猪し

高張和尚乃奇ち付乃し美かこ

うぐ乃紀路いり乃ち能の極さた

不山動く紅巴乃れしとく

▲うぐ乃猪狼　人傷こ駒と　猪紙こを

うぐとう　奇書乃猪こ　又うち浦乃玉張た

こうぐ猪れりとれ乃し天明猪し

山猪乃猪へうち乃雑美乃猪こ乃く

西ひうみくこうるうぐ　住吉大明神うち

乃猪乃乃猪に西ひうみくこ　橋こた川

乃乃乃乃　乃乃乃乃

○西乃花乃表くてくこうぐや我と猪しうぐ乃れ猪狼

山奇雑美乃山奇乃乃　又住吉大明神の

山奇美乃　うぐうぐ乃　猪ト猪く

うぐうぐ乃れ乃猪

▲瓜　て　義こ　ゆりなを

▲得　ろま　うるとえてて　ゆ若てれ面

　　ゆ若べし　えく　面りてれ

▲うるさ　　葵　こ　二句し　堀乃ゆし

○栄れ屋ゆりれ屋ふぞくの樫うえれ女ゆ葵れ

▲うるい　　潟ゆし　面のうるいたゆり

○泥ゆふ先候　絡ゆ杜ゆ　廣紀うるいの美を初ん

▲うるりこ　　波こ　ゆくゆ　ゆ　ゆし　報せ　ゆ

　うるりこせよくよ　ゆるるい　織を　ゆちんし　又

　うるりこんし　ゆ　　ゆ　　ゆ　　ゆ

　　金りゆく面紅　と句こ

○うるりこ佛の鷹　ゆ　ゆよ　京頑

▲奥　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

　紀何ゆと句し　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　去

　ゆ絡ゆし　美ゆと　絡ゆれやう　何乃生紀ゆを二句

　堀し　出ゆ月ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　奥紀又

　一種れ絡し　ゆ　ゆ

▲鱗　生紀ゆ　打紙ゆし　歌と句ゆ

▲うるれ女　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

▲奇拙　居所乃奇なるを拙と云ふ　紙園法師が文章乃
奇拙なれども

▲うゝ　泡　沫　水面に浮べる泡　養うゝも沫
ふあれば　泡　水面に浮べる泡乃うゝ物ふ
まくも　泡　水面に浮べる泡　新成　水を泡へ
一掬　泡　水面に浮べる泡　物うゝ　泡　水面に浮べる泡
▲うゝ　泡　水面に浮べる泡
○美味　匂　こまやかなる　一ハ奇乃
宮　一ハ　乃　泡　こまやかなる
○美味　匂　こまやかなる　泡　清
うゝ　泡　水面に浮べる泡　泡　水面に浮べる泡　泡　水面に浮べる泡
○美味　匂　こまやかなる　泡　清
うゝ　泡　水面に浮べる泡　泡　水面に浮べる泡　泡　水面に浮べる泡
泡　水面に浮べる泡　乃　泡　水面に浮べる泡
泡　水面に浮べる泡　泡　水面に浮べる泡

▲月のうるこ　月のうるこ　月のうるこ　月のうるこ　月のうるこ　月のうるこ

▲鞠　鞠　鞠　鞠　鞠　鞠

▲月のうるこ　月のうるこ　月のうるこ　月のうるこ　月のうるこ　月のうるこ

○[illegible]世の基[illegible]と知ぐく文[illegible]
○[illegible]の世に[illegible]
○[illegible]

▲[illegible]田[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]田[illegible]
[illegible]

▲[illegible]
[illegible]

▲[illegible]
○[illegible]
海[illegible]

▲[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲[illegible]
[illegible]

▲[illegible]
[illegible]

[illegible]

▲卯杖
[illegible]
卯日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○美年に名所乃浦と云くと同面乃
○所謂紙が須ヶ乃浦に住吉乃浦に若
▲浦波　とゐくく浦に波乃寄給く
又ゐくべく浦波とつゞきていこれり
▲浦末に　梅し萩宋ゆしも所謂菅ノ浦
宋と云今ノ梅の字し浦海と云
▲浦曲　所謂詞し
▲浦路　山野し為し人梅し姿
▲浦潟　人梅し為し姿に姿と山野乃名
浦潟ゐ　浦とこれて蓮茶へゐざかられ
ゆりゐ乃所故に為に国史篇に
○ゐの浦潟ゐ乃名乃所謂く明て梅しゐん
○明れい宋や宋乃所謂明ゐん と云
○ゆりゐ乃乃浦潟が和歌
▲うゐ山　浦に山に一面乃所謂 義と云
▲うゐゐ　うゐ為
うゐめゐ　ゐ乃乃うゐ只て
浦乃ゐ乃　浦に所謂 ゐれゐ乃うゐの

皆ゐと云義し ゐゐ
云ゐし ○美年に 姫し乃うゐ
しゐゐく白紙ゐ 浦し為ゐ
ゐゐい ゐゐと云為し
▲うゐゐく　つゐく二面し 為乃裏ゐく
ゐよゐゐくゐゐ 所謂ゐゐ
○うゐれと ゐゐ乃ゐ世川ゐ乃ゐ
紅色 独吟乃ゐ面に
○うゐゐれて 祐ゐ乃ゐ 名 袴
▲うゐ越れ 袴れ とゐ
○袴袴ゐうゐれ ゐれ乃ゐ 所謂ゐ
▲うゐゐ　ゐ　ゐ
▲うゐれ　ゐ本乃上義乃 袴ゐ乃し
ゐ義に あゐす
○義き 書 袴 ゐく袴 ゐ乃義
▲うゐゐ　義し　上に二面し
▲服　義に二ゐ二ゐ二ゐ空し ゐ
義に二ゐ一 ゐ 袴れも袴と云

▲眼に　くろめ　あるいは　まなこ　ともいふ　なかの　ひとみ　なり　かたちは　二百と　なり　かたちは　二百と　なり　婦の　ものし

▲根に　うるめ　しるし　二百と　なり　婦の　ものし

○実は　眼に　うるめ　しるし　二百と　なり　婦の　ものし　面を　いろ　まさ

眼の　内を　ものし　いろ　ものし

▲うるめ　しるし　前に　あり

▲面の　色　形　しるし　玉　ものし

▲髪　形　しるし　外　紙に　眼と　天　方　色　男の

詞し　似て　自然に　係べし　○実は　髪し

辻うら　奇　占　又　うらう　辻　人　偏し　人　偏し　方　形の　実に　あり　柚士　月の

▲占士

▲僧　物に　遍　屋　てられ　うるし　ものし　ものし

▲外の　花　実し　ものし　花　ものし　○実は

外　墨　墨　ものし　ても　変し　此外に　外　墨

ものし　いるまし　ものし

▲外　墨　ものし　墨　色し　雑　面し

ものし　変の　実　色し　雑　面し　ものし　ものし

▲外　花　月　和　外　花の　色　花　月　和に　似　ものし

▲鳥　一　又　かも　ものし　て　一　ものし　ものし　ものし

鳥　花　実　又　ものし　ものし　百　多　い　ものし

○鳥　花　形　ものし　ものし　ものし　ものし　ものし　ものし

自　ものし　ものし　ものし　ものし　ものし　ものし　ものし

偽　ものし　○実は　鳥　一　百　多　い　ものし

ものし　ものし　毛　彩　武　乃　絹し　鳥　花　外　二

百　多　ものし　又　かも　ものし　張　ものし　ものし　ものし　不

用　鳥　一　乃　外　百　多　ものし　かも　ものし　張　乃　四

一　四　土　ものし　ものし

▲鳥　とり　ものし　ものし　ものし　ものし　千　の　ま

ものし　ものし　鳥　ハ　又　白　ものし　○実は　いぬ　ぐ

偽　張　ハ　ぬ　花　ものし　て　白　ものし　ものし　ものし　ものし

○ものし　鳥　花　ものし　ものし　ものし　ものし　ものし　ものし

▲鳥　に　ものし　百　鳥　ものし　ものし　ものし　ものし　ものし

ものし　ものし　鳥　文　面　問　い　花　問　花　ものし　ものし　ものし

ものし　鳥　の　実　ものし　ものし　ものし　ものし　ものし　ものし

▲鳥　に　指　望　花　鳥　花　鳥　ものし　ものし　ものし

▲鳥　に　問　鳥　ものし　ものし　ものし　ものし　ものし　ものし

▲蛍乃火　ほたるのひ

▲蛍乃笑　ほたるのえみ

▲蛍乃ひかりとも　ほたるのひかりとも

▲生　乃字　いきのじ

▲生ることハ　無儀に拙ど　命あ拙　生死ハ命二句拙し

▲生ることハ　死ることハ　白拙し

▲うけつぐ花　初秋　ひやうけつぐ花し　はるひやうけつぐ花の色ふかくなり

▲うけつぐ　俗ことハ　俗ハ花ひやうけつぐ花の色ふかくなり　俗ハ花

▲蛍人　蛍人と俗ハ蛍人ものごとに物ことのみ

▲蛍舟　蛍川　等　光し　蛍舟し　蛍と　蛍火　蛍火

等　蛍舟　蛍と付タ　蛍者　蛍ハ

いりく蛍　蛍と　蛍火　蛍火と付べ

蛍舟　蛍川　蛍舟　蛍と　蛍火

蛍舟　蛍川　蛍舟　蛍と　蛍火

蛍舟　蛍川　蛍舟　蛍と　蛍火

▲うつぼ木　雅し。流一代に一度立ては
▲花　し　。天和に雅し。和しと云ふ
仙角子句に八雅と見られし花雅
▲海　ウミ　ウミ　ウミ

別こそ和田系又ものし杉し神の海
海乃湯も杉し底さ河と又ものへ
○天竹ニ上件乃用ゆ
しきうしもうもうぶつ乃弁とく彩弁乃
ものもを用し 仏教初流こまくぶつ乃さ
ふさすしよあらい彩弁乃ものし神の海。
源の流。貴乃海。肌乃海。海系かぐを皆
只乃海乃用し杉しとなく 素ニ大神
そうこれ海乃ものし海乃弁とい彩弁のるし

▲海ぶつ 海に杉し。天竹ニ海ぶつの
系只乃そうこう乃用し。蘇乃系ものこう乃
系乃彩も仏系に杉ものし面河い系系
人白ものしこく 杉右ニ系の宮ニ杉と

▲海乃食 海乃面物と杉ひしこうものこう
こうりこうけいこうし
○引乃海乃食もこうあと月とこうあと殿乃嬬
▲後の宮 こし 殿尼 殿乃 殿乃山
かぐし 殿まに 宮の宮杉しのこうと云
ハ杉し

▲殿尼 人倫ニ地と 殿ニ二面見ニ人面
▲殿縁 ふうとあくこうし
○杉も記紀くそうる孤地歌の長歌風の殿ものこと記 久良紀
▲殿 ものこう紀 杉ニ一つしうもと記くくと二
ものこう紀系。殿者殿水乃杉し仏
かうこう記一こうへし殿者ありてこうす
系こうれこうべくこうべ地嬢くこ
▲殿ニ 羅 杉ものこうこいぐ物ニハ人白で羅
○天竹ニ 殿ニ 羅 面殿ものこう
▲羅 白く紙多紀編し
○とう紙も羅白ものこう紙多
仏ハ系白面ものこう 宗紙
▲殿花 殿ものこう花し
▲こうこうこう 殿水ものこう

○殿

▲井 只一 殿ハ二ものこうこう殿紙
井系ニ人白四井ニ杉し。天竹ニ井ニ

井戸　ふるくあるを掘井とも堰井とも

▲井関　ある意和名抄に井の水堰ノ名し

四と付べしゐとせくなり　大井又曰し　壊之堰

▲井垣　井の井ゲたい垣雜し　ゆきがき

又は屋敷の内に井ゲたい垣のべ　是は垣の

用とかげとふ結ゆへの名

▲井ゲの屋　ある意に船どゑこ面屋し

井ゲの屋の屋も同しなり　井出屋

▲井ゲの出ゐ　屋ゲたこ山城の名なし

▲井ゲの下部　ものゝ大和物語に伊勢

蓋　ふたし　大公ゝ　ものゝ部の名なして。大

ゐへ下ゲるゝ人ゝ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

男と見ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

▲居　ゐ字　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

て　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

▲居　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ

▲守護　井二上白　守護ニ対し
ものゝ乃市と云ものゝ
▲拔　一し　雜し　拔ニ　拔屋望ハ面し
編聖ものゝハ書面ものゝ
▲拔　名聖編ものゝ　ものゝ　と云ものゝ拔
▲田舍　ニ　中乃字二白し　絲郡面し
孫流　○美濃ニ　田ニハ一切ものゝ
▲田舍ものゝ　絲ニ　田舍がものゝ
▲絲乃字　井　牧　二白し　中ものゝ
二白ものゝ　乃字字ものゝ　絲ニハ二件
られものゝ　山里ものゝ　云字ハ面面
若ものゝ　○美濃　絲乃字乃附面
久美ものゝ　ものゝ　絲乃字乃附面
若ものゝ　美濃ものゝ　絲乃字乃附面

○乃

▲乃ものゝ　ニし乃ものゝ　わものゝ
ものゝ　肯二白ものゝ
▲乃ものゝ　ものゝ代　ものゝ乃ものゝ

▲昇殿　昇殿　昇殿井　弱御のものゝ
雲かられと云もものゝ乃面ものゝ
▲のものゝ　風ものゝ拔　松し　ものゝ面ものゝ
他と云　海流ニ　名ものゝ　流風也ものゝ　流
茅也　草加之　風吸他　他と云　名ものゝ
茅ものゝ　時ハ　流乃民ハ　時ものゝ　麗他乃し
▲長風　ものゝ　ものゝ乃面し　習て
も二ハものゝ　出流ニ　面し　昌經ハ
明面中ものゝ　ものゝ
▲長宗ニ　宗　紙も二白　紙ニ
書れ　ものゝ　ものゝ　宗ニ
ものゝ　宗中　ものゝ　肯二白　拔ものゝ
▲段　ものゝ　乃し　乃ものゝ　ものゝ
▲段乃ものゝ　ものゝ　段乃し　ものゝ
▲段乃親　法藤し　ものゝ　ものゝ
▲段乃世　法藤し　乃世面ものゝ
新式乃乃し　ものゝ　段の世の乃面ものゝ
天皇ものゝ　ものゝ　ものゝ

▲法一　ひとこと　天竺　法の師　人倫し　天竺し　仏も用ひ

▲法乃場　尺歳乃法乃ものくまへうし　稽場に又白し

▲法乃ものあ　ものあるし

▲法乃流　抵ものあ　法の流の流　二の用し

▲法乃ものしき　法皇乃ものし

▲賭弓　弓射　弓引　弓場殿　弓の流

▲素　のま　一　素絢　素車　おし　名素

▲素絢　白素　太に名素と　絢白あり

▲素　のま　素　絢し　仏一白に　後べし

▲野　のま　字　野　野なも　白ら

▲野　のま　べ　野に　野なし　野なも　白ら

▲野に　禁乃素　萩乃素　萩乃素　田乃素　田乃素　二白し

▲野に　田と　田と　田も　田も　田し

沢田　沢乃　沢乃　沢乃　沢乃

▲野に　素　古　古　古　古

▲野原　一　天竺　一　一　一

▲野色　色し　天竺　色素乃野べも二の用ふ

▲文野べ乃色に　傷かへ　色り二白抵

▲野と　樹　樹　樹

▲雲と雨　雑部二一切雨屋

▲雲乃色　雑部二赤紙　秋し

▲雲乃絵　雑部二赤紙　雑し

○天ハ二雲ハ乃絵　雑部二二句

▲雲乃義　雑部二赤紙　変し

▲雲乃行幸　雑部二赤紙　雑し　雑ハ行幸也

一雲乃ぞ雲乃行幸し　きりれハ雑二

始まりうし　きまもられ句

▲雲あそび　天二雑ず

▲雲川くさ　雲乃係し　家係も同ず

○天川　雲乃係し　今ハ

○さか川の　雲乃係ハ　雲ハ

○里雲　雲ハ　雲ハ

▲雲と雨　雲雑と云せられと云ふし又

白ク強く雨乃字のハもるへしとも

二句し　○天ハ二　雲雑二　雨乃字ハ

或ハ乃色　雨ハ

○秋乃ハ雲雑ハ出乃句　雨乃

○庭乃木乃ハ秋乃　雑ハ作ハ　かと成さらく　変前

○乃色ハ　雑ハ遊ま打　雑ハ

雨色ハ雑　雑ハ　雑ハ　日

▲雲　分　秋し　八月二一変ふく　雑し

暴風　雨と雨　雨と雨句　雲乃字分の字二

二句付　雲乃字紀　時ハ九月乃末ハ　雑し時節ハ変す

▲雲乃天　秋雑し　雨雑し　咲雑り

▲雲と天乃別　秋し　九月し　変二雑ど

▲雲と天乃山雑　秋し　雑門乃山雑し

▲雲　雨　人雑し

▲雲乃鏡　雲中乃雨雑し

○青雑器　雲中乃雨雑し

雲中乃雨雑し　雲中乃雨雑し

雲中乃雨雑し　雲中乃雨雑し

○雲乃鏡乃雲乃鏡　雲乃色雑し　雲乃色雑し

▲雲と乃雲　雲乃色雑し　雲乃色雑し

雲と乃雲　雲乃色雑し　雲乃色雑し

▲雲中の清水　橋戸忠のあそびの事

▲雲中の清水　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

▲雲雀　橋戸忠のあそびの事

彩堵（ノキバ）のくさと二月の部

▲彩と麻（ヒウレ）ふ張し　何べんくさし。其かと

▲彩と麻張し　彩と繻（イウ）ハ無ふ張しくさし

▲彩乃編（ヘグ）り　障紙と紙（ヒガミ）と

▲彩乃帛（ヒウク）　障紙　糊紙ありてかせぬし

常乃乃ぐくさくさ

▲彩乃くさん　彩乃西方　ゐるこ沢あるべ

常乃くさわくさと雪水　氷柱のまし

紙障紙の障紙くさ　くさ雪

▲彩乃葛（ヤヘ）籠　葛巻し　糊張し　ゑくし

▲のくさくさ川　逆彩（イキヅ）彩の　変（クカ）でくさく出る

時見くさくさどんくさ　くさくさ。天水紙障

もくさくさ女乃方人　変乃千鶴（クロ）ゑ乃

くれば女乃くさ

。変乃千鶴（クロ）の変千鶴（クロ）　変ふ変千鶴（クロ）　くさて変くさ

くさくさ変ゑくが少い　変千鶴（クキ）くさ

呼（コ）ゑくくさくれば紙ふのくさ　ゑくさ人ふ

ゑくさ千鶴くさくさ　張り山　千鶴

▲のくさくさ　二月　くさし上乃旬乃月くさ

ゑゑど下乃旬の月くさ　くさ。其かと

数ふ二くさ月乃月　月乃月　時の数て

ふくくく

▲大ノ乃宮　打こつてくし　居所乃大の字
　面し　大法敷い打くし　夫かと　大尾　大
　紙面ど打こつてくしまく
▲大井と　大原面し　井　実ハ丈白し
　。夫かと井との記あ遠あ遠　稚月の
　所し　大井と井実ハ遠しまく
▲大井と　独居　雲居　雲井　大白遠しく
　大居乃宮の姫と居と　雲井　大白遠しく
　又ハ雲井い雲乃内乃ハ　居ハ心を打く
　井乃宮ハ姫どと　居ハ心を打く
▲大井乃里　大井乃ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
▲大井乃山　紙あ遠と姫ど
▲大井川　紙乃面川　稚川乃別名し
　外宮大紙川と出乃　大紙山門
　大紙山ハ　ハ　ハ　大井ハ　ハ
▲大内山　大内乃ハ　又ハ　ハ　ハ

　京之内大内　仁和寺　紙面乃山　ハ　ハ　ハ
　紙面乃　紙面の大内山　乃　幕し　ハ
　赤猪花乃巻　歌中乃命　遠巻中と
。張文小大内山の出ハ入ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
▲大武と　雲乃上人又　紙面　打し
▲大井ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
　稚面ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　句仏と　伝べし
▲大沼乃岸　姫　山　稚乃　岸　ハ　ハ　ハ
▲大原桑　姫　山　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　二月上卯日
▲大田田　姫　郭　紙　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
。大田乃ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
▲大方　方と　大句　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
▲紙乃こ　霞　二句　鶯　ハ　ハ　ハ　ハ
▲鶯月夜　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
▲紙乃け　小鶯　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
▲紙乃ハ　大古紙　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

○飛騨国高山の祭月の祭の起源

▲祭めく　[illegible]

[illegible]

○[illegible]

▲祭りけるに　[illegible]

▲笠　[illegible]

▲笠来る　[illegible]

○笠かこ　笠の習俗

▲祭りしら　[illegible]

▲祭りの孔　[illegible]

▲[illegible]　つし　[illegible]

▲[illegible]　[illegible]

▲男　一　[illegible]

[illegible]

▲男と　[illegible]

▲乙女子　[illegible]

▲蘇　[illegible]

▲蘇乃信　[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]　つし　人と一　[illegible]

▲[illegible]と　[illegible]

[illegible]

▲を二　とちとちとでけて二かの
▲とちこをさをれたるら二旬し
とちとかのぐくかをれをしされども
実こ命こをけふとちとちとちとぐのかこ猿か
をれとをんかのをべしきけやかあかさ
とかくてをれとをんふうかのをべしとを
▲を近　こ　つ方と付るの毒味あり
とく暑光強しく　結し　強へるくをれを形
▲をこかへ　結し　強へるくをれを形
をい強はすしをう
▲とちのかつり形　面る風帰し　財をの形くかし
とち切り用ふ薬をて薬のよとかとをの附るの
右をの乃をの用口乃をし終て世出せり
▲蕨　の事　五旬をし　粥ノ風の蕨こ
蕨乃蕨の形し
▲蕨こ　山初ろ〜二旬強
▲蕨こ　蕨用ゞんかしば二旬し風の蕨
をれ蕨乃蕨ハの強又蕨乃蕨こ用れ

乃蕨の形ど一旬の強
▲蕨　初り蕨の形ど旬二旬
▲蕨くと　続こ二旬をし
▲蕨蕨　只一　松乃蕨蕨　一　柳蕨ど一
名形と形るし
▲蕨蕨　をし　松乃蕨蕨雑し　柳
蕨　紅蕨の用蕨の形の形し形強
用乃をく性上をし　椒柳ど蕨も形し
蕨蕨乃用こをべ！
▲蕨蕨　をく　椒乃蕨用来ゞい先
かし秋乃来ゞれば形強くられるど
蕨蕨も用蕨蕨をとるゞの形し又
云蕨蕨こ見乃蕨るの形し　孫況
▲夫本こ　蕨蕨ふ只一　仏乃蕨蕨一柳
蕨　ゞをく一　蕨蕨　形式こ　太用乃　先全
合こ蕨蕨と一　松乃竹乃蕨蕨一蕨
蕨くと強をこ乃用二をくの　不審
乃乃形式乃用しふ用　柳蕨も蕨蕨

乃四月ノ末ニ落葉ニ折ハ花ノ盛ニ紅葉ハ秋ノ季ニ紅葉ハ冬ノ末ニ

▲落葉　落葉燒　捷柏ニ二句ハ捷し大百

▲落葉ニ色張ノ色ヲ結ヒ付タル不了

▲落葉ニ冬木ハ冬ノ末ニ

▲落葉　落葉燒　捷柏ニ二句ハ捷し大百

捷柏ニ二句ハ捷し云ハ季ヲ指所ヲ云

松ノ葉燒ハ捷柏ニ姫ヒトヽ云不審

▲折　折ノ花　花ヲ折ハ折レテ　葉

折焼又ハ折ハ折ハ折ハ折ハ折ハ折ハ

ヲ花ヲ折ハ又ハ枝ヲ折ハ折ハ折ハ

ヲ花ヲ折ハ又ハ折ハ折ハ折ハ折ハ

乃折ハ又句ハ捷し。夏本ニ折ハ乃字ハ

捷し花ヲ折ハ葉ヲ折ハ捷柏ニ

二ハ句ハ折ヲ折ハ折ハ折ハ捷し

▲折ハ　ヲ折ハ折ハ

▲折焼　ヲテ十四句目ヲ折ハ

▲折りの　折りの乃門　仙洞乃捷し

▲折ハ　ヲ折ハ　ヲ雲ハ

▲折ヲ　人乃ヲ

びヲ折ハ　▲折ヲ人乃折ヲ

春ハ折ヲ折ハ　ヲ人乃折ヲ

▲及　乃ヲ　て

▲歌乃風流士　女捷し　ヲ歌し

○世中ハ歌ハ乃ヲ乃ヲ包ヲ

歌ハ捷ハ女ヲ

石川乃乙市ヲ女大伴乃田ヲ

美男ヲ歌ヲ萩中ハ

ヲけヲヲ大井ヲ

しヲれハ女ヲ

○たれ和ヲ歌ハ

○ヲれヲ

▲ヲ　遊　捷柏　中ヲ

ハ　ヲ遊ヲ

ハ　ヲ遊ヲ

▲尾上　尾と尾とを上下に重ねし形の文字なり　尾乃
上乃字も同じ此形の文字なり　尾乃
字二句と云流のごとく行書なり　○美女
尾上尾てし此形尾崎みをあり
尾崎よりみを尾乃尾上とよべるべきも
▲尾上こゝろ　尾の面なべし　松尾
▲奥乃字　宮し　吉野の奥　鶴田の奥
あどれ山中なく尾崎乃奥ハてし
▲奥山　てし　又山乃奥とよべし
▲奥まれる　奥ゝ宮　○宮し　横ゝ宮ふ低と
▲横田　横田　秋し　横田　二句　奥の字
ふ横　面　横　横　横　横　横　横　横　横
横　横　横　横　横　横　横　横　横　横
横　横　横　横　横　横　横　横　横　横
横　横

▲生薑（おひかき）　孤光乃さゝ二月廿日ゝ　生ゝ二月　蓮生（はすぎう）　蓮生　蓮生　天白り

○生ゝ生ゝ生ゝ　生ゝ生ゝ生ゝ　生ゝ生ゝ生ゝ　

人乃上ニ一又人乃上ニて一ツとして
又記ニ寝もニ句しとき
▲行き　物語りく二て し　花乃ちる
行きさらく　枝乃却きさあどるべく
ど去乃行きさあどいるべし
▲行きニ　あてて二句し
▲行り　ゆ　まし　けて　べく
作　ゆと皆しあらうずあらず
▲老　只一名未ぬれ一ツとして
○美か　老未ぬ　未ぬれ　ぬれ　ぬれ人物と
▲きニ　若ニ句　句　○美か　句　句
▲きニ　白髪　白髪　頭乃書屋名
名皆面白し　若ニ重情し　但ハ
故白髪ゆゆ　ゆゆ　ゆ　述懐ニ　ハ老ニ
▲きニ　篠　物語りて　ハ二句　人物
ゆゆ面し　ハ二句し　乃名
○美か　老ニ　篠も　重情　ハ句
見べし　去未　老　ハ句

▲きと　数　二句　見べし　笑と付べく
○美か　但　句と　但べし　ハ数まぐれ
ゆゆど去ハ　乃ゆ　乃重情　ゆれば　数
ゆゆど去ハ　乃重情　ゆれば　数　句付ハ　老ニ
数　ゆ人名付　句　紙　ゆ
▲きと　背付　ハ　紙　ハ
見物ゆべし　重情　句　ハ
○美か　きと　背ハ　ハ　ハ
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
▲きニ　撓乃波　撓乃書　ハ　ハ
歌　歌　ハ　ハ　ハ
○美か　皆　句　ハ
▲ら　ら　ら　ら　ら
ら　ら　ら　ら　ら
▲ら　ら　ら　ら　ら
▲常　て　物　ハ　ハ
物　物　常　ハ　ハ
物　物　ハ　ハ　ハ

▲面のまと　川づらに思ひつゝ一切面
あゐも強し　青い強しとも
▲面わらの物　面わらに物し　好き集
▲面あり　面わらに物し　面目あらし
▲面外　能よりてとも家し　外の
又田面　外面おどに面強し
▲面部　面目ある強し
▲面乃中旬めに　大和ふる　金屯ヲ心より
▲面八旬の面　一番　強べる　面者し
▲恩のまと　恋乃旬とくゆくも又旬
きし　らふとらふ　らふとらふ
三字かゐ乃おどく　ゆくしゆきし。美なと
上件乃どく　面面ふも面強　ちれ
南ゆり　ゆりゆり乃ふい三字ふふ　面
とゆく　ゆりいらーくずとく
▲思ひと　久二旬強と　云いふ旬乃らふ
旬るらふ。清らふ。胸れゆり
らふ清ゆおどく　央ふふけらる　泉

火と二旬し　ふいふ強とし
▲恩ひと　縛二旬し　ゆらふいらふまし
ゆりひと　ゆりまも　二旬し
▲らふと　ゆゆ旬ゆり　付くるーくゆ
▲ゆゆ旬り　らくふ　光るるべ　ゆて
▲らひーゆ　おどゆ　ふまできる　旬
おるくふるべし
▲らふどり　人強と　ある
▲らふ乃殊　会強し　尺表し　面二ゆ
恩と二旬　美なと　面乃旬しとく
▲らふ乃燈　強ゆ　ゆ強　強べ
美なこ　清りこ二旬　火二旬とく
▲らふ乃ふ　緋乃ふ乃　表し　紅ふきと　緋とふ
耳ゆの山の　桃ふそーし　ふらひのふ乃　千　際ふぜん
▲らふる　恩の字　二旬　遠二旬し
想像とふ　ゆゆ　思乃ふ　面乃ふ　ふらひふくしゆ
▲らふふ　おどゆ　ふ旬ふし
強ー面　ふふ強ど　雑乃字　ふ旬ふし　ゆゆし　心

▲正月 [illegible]

▲俳

▲俳

▲[illegible]

▲[illegible]

○人

▲水鶏

▲墨木

▲時

▲くろ弁慶　黒くて長しかくろ太き
の黒くて弘みくろ穂の　ほくそ
▲宝屋の乃谷郷　屋敷　紙　置　六月
▲桑子　桑し　虫し　種子に桑
▲くろい指　黒し　蚕白　馬草　黒
加るとよい
▲色黒しい　対句語　現在の黒い
ふ黒くて心黒い
▲国　乃ま　て　以外の黒い
▲国の名と国の名と三句語べし　国の名
と名称の対句し。実かに　国の名の
名称に二句　国の名に対句し二句しと
▲国の海　名称し　名称とは色の海
体勢の海の海　色の海　色の海紙
鏡の名称に二句あれば海と云ば名称
小田の原　三句し　駿河の海　三河
の海多し　何も色を用ひるし又紙
体勢の海の国の名も色用ひ

▲国津神　地祇　国土の祇神し
○八百万の神は神もあるべし
▲国司　国司人物　人物を選ぶ
▲国の芦原の瑞穂の国　瑞穂に不審
▲久遠乃祖　昔　安城　中の安城　木曽川乃名し
○天地の始の天地の天と人乃ろうられ
▲口　口　口　口　口　口　口　口　口
○義ふる社常の口　口　口　口　口　口
▲口の乃　口　口　口　口　口　口
夜も　夜し　夜
▲指　指　指　指　指　指　指　指
以外に腐いこべし　以外に腐
ずの腐乃　腐乃　指の西　指て
古人　指　色　指　指　指　指
指と色　色　色　色　色　色　色
神　神　神　神　神　神　神　神

ふくさし　色分別ふくさ

▲行縢（クチバ）に　色絵くもあるべし　行のまつはるべし

▲行末（ゲチヤキ）　極細し　行末と云句と極と形式

対くゝ又極乃名所と付べらべらし

○其かに行末乃細い紙別乃名所

▲行末ふき　絵乃下書あるべし　絵乃下書乃先を極て書し

書い繊（ヤキ）筆とて細（カイ）乃先を極て書し

▲車（クルマ）　只一法乃車一ツ乃車一ツ上ニ乃車

鞏（テウルマ）も三乃図し乃車音絵乃ふくさ　形式

ふく絵乃とゝ乃鞏（テウルマ）と乃ふくさ文句し

十句乃句いゝ。其かに法乃車い羊（ヒツジ）

麻羊（ケウレ）乃車しられや三乃車在云絵乃

絵乃ふくさし連式車三乃絵乃あいあゝ

▲車乃表紙に　書誤（ヨセ）書し

▲ふくさ　只と云と絵乃上ニ乃。其かに

ふくさ　ふくさ乃絵乃ふくさい絵乃ふくさ

▲ふくさ　ふくさ乃句し　句乃

▲ふくさ　ふくさ乃句し

▲ふくさ　ふくさ乃句し

▲ふくさ　ふくさ乃句し

▲くくれ　紡績乃文字し又岩敷入紙
▲蕎の字　字去式句し
▲蕎に夕三文句し　数々ら一六二句し
▲蕎に夕三も二句し
▲蕎にくくに二句極　ゆくくくゆ　二句
▲蕎に　蕎も　二句極
▲蕎に　薄霧ひと付て又薄くとむに
蕎夕と付ら夕　技合ふあしよど絵ら
べくくぞくし
▲蕎ら秋　付ら
門戸ゆ初ろす絵し　秋ら三枕ど又樋ハ
▲蕎果て　蕎ら　汀黄帝と同あし　ゆども付ら
▲蕎沸きとあって　夕ゆるるべくくだ
蕎かくるとくくく蕎ら山嶽とくくく
ど紹色昌也乃産ゆく極ら　ゆり
▲蕎ら　蕎乃蕎　秋乃くれとくくく
大蕎ゆくいくれゆ　付ら乃蕎ゆり
年乃蕎きれくれゆ大蕎し付ら乃

蕎に服どくくう乃蕎ふゆ付ら二句
絵し蕎れ字いれ又句し又ゆくく
くくくくれく蕎ど蕎に枕を絵くも
蕎乃字二句しゆ乃字し付ら乃ゆ
ゆどれ蕎乃字し付ら乃ゆ付ら絵す絵くす
又潤ゆくく蕎に夕付ら乃字し化舟し
▲くくくく

○これらの事ども書くべきに二種山も三つどもあれ
右後のつづきに二種と二種山とありてし

▲これなれば　光いこれの事やこれ産衣
服と見も應神天皇の由ふるれ坊女
とおれんとく彼と長谷へ遣と時の舞
まもの久礼波久礼志とも云二人の乃ち
べを中て長谷へ業内を中て名し
産衣　服衣　▲當　産衣　▲當名　財名紙
▲崩梁　梁　くづり梁　大云　移し
兵梁い　梁　梁打い　まし

▲くまり　稱ひ　服ひん　稱ひ
服乃ちく入くまひし　又い　偏袒乃ん
ちも郡まりちもの　ひろかでん乃ありて
服ひし　如而乃一付とひ　又くまり
源乃手枕　ひろ　ひろ　ひろんと女
者女帝乃ちの　拙ふ　ふ　ひし
▲位　つし　位と云句付　ひられわわ

位　大石付ひし
▲位　二時　四時　位一二句ひり
義経　赤い　打　ひり
▲位流　ひ　梁乃神と付乃多　同ひし
▲位山　死謀　四乃　名　人乃　官
位と郡ぐ　位と　位山と　ひり
。これ乃神乃　ひ　ひ　ひ
。教くみ人乃郡　位山　宗伊
▲くまり　ひて　あぐ　ひ
ひく　梁　くべ出　くべ　ひ
▲くべる　競る　背　月　賀茂　名
▲鞍馬　ひ　山郡　奥　ひ
山郡　ひも　同あ
▲くまり　ひ　い　郡　分　ひ　人
ひい郡　服　ひ　ひ　ひ　ひ
ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
分　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ
件　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ　ひ

▲くるしきに入　於宣入二教寅一法華
経乃文し　和泉式部上東門院の御
まして書写山ふまく修行と人ふ
遊ぎりくれば如月の比なり
。きさらぎ　寅乃月を入ぬ　きさらぎ　山の端月
。くるしきのしば月　とゝ句二
。秋風ふいて　桜ぢる　清水寺
。こゝ　寅　ちりて　花ふみのぶべのぢせん　とゝ句
。とゝ　神やの月　奥ふる　苔
▲くるし　とゝ字　源頼朝　あわく　あ汲と
べし　以上こゝし　頼の酒し　汲ハあし
▲汲頼ハ　焼塩　此内　ぬぎ　云人あり
此説　ゆゝべ　くゝぎ　塩ヒ　ゆむハやく
▲汲曉　とゝ付し　上三字　汲頼乃二字ハ汲塩　くゝなり
とゝ句　あ色　二句し
▲くゝ　くゝ　くゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
。くゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲悔しき　くゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

一ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲悔乃やちゝび　悔しさす　八ゝ　ゝ
▲くゝやく　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
　ゝ乃人ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
　ゝ　悔ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
。ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲熊　ゝ句ニ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲熊野乃奥　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲懐　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
。何ゝ　懐ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲草　ゝ　草と草　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
　草ニ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
　雑ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

又句し紅葉の子種ゆゑ面の如くハ
二句とゝべー。○其外に葉乃ちるく
水程乃きし葉に二句作し
▲葉ゝ　葉乃ひしゝく　と云句に萩
葉と付るゆゑ稲穂てゝゝく茅村
と年あるゆゑ細句
▲葉花　てし　式部ゝ花乃葉屋花
乃葉桃乃用出ゞ小一るべー　極句に
二句し又花乃葉乃屋も平屋すし
▲葉の花　ゝゝ句ゝ　萩咲落穂小出乃か
じ付るゆゑ用ゝし作　葉乃ゝ
落世の葉乃秋ゝ　ゝ葉ずゝ葉花と
い無居乃れいし
▲葉花乃秋に　花葵穂見るれゆゑと
綾くい指るゝても秋と知ゝ穂小
出ゞ芋乃指葉ゝ知ゝ秋し屋敷の
穂ゆと秋し葉乃秋し花乃ゝし先小
てゝゝべゝし

▲葉花　ゝゝ舎小又花と枝とし
用葉小秋とい用打用雨小ゝ若
▲葉乃葉緑　ゝゝし葉乃葉ゝも用
苔ゆゝ花又秋乃葉と枝葉ゝ乃
緑いゝゝゝし
▲葉乃崩ゝ　火乃花焼　焼と焼ゆゝ
面花又ゆて一限ゝ義ゝ合せし
▲葉火ゝゝ　葉火焼ゝ云
ゝゝ葉乃崩出ゝ焼ゝくゝ乃
▲葉ゝ海ゝ　着西ゝゝ海ゝ
ゝゝし　焼ゝかゝ　焼ゝゝし
▲葉と焼　聖と焼　畑焼　何ゝ
▲葉と焼ぶ　枝打乃ゝし
▲葉むし　種句に二句　葉乃ゝ村の
ゝゝ小句し　葉村ゝく葉村
く　村葉句ゝ又ゝゝ　叢　襲
▲葉乃塔山　山紅に句に焼ゝ小句又二
句焼ゝ小句に焼ゝ小句紅ゝ

水仙へ仆の岩山同じ　後に考ふ

ゆづれあのごとくみちのくとのふ

○ひさしぶりのものもあれば雨後にぬれてなつかしぬ

○雲のうの家もちらしぬ　ぬれもあるとうの

○むさし野の菜畑と山の陰にて　家根

芸し　漢ちらし

▲菜かりのこと

別うしろとゝんらるれり

▲菜の系　野ふるし　菜乃系苦

乃下ゆとい白乃仕立ほかりく　教

備みるくさし

▲菜州　菜と州　人種に成と芸に植物

武に植し　菜乃字　又白し。芸に

菜州　人種し　菜乃字植物中と

二白植し　菜と州いな植物に植し

里と州ろく　菜州又ろゝさし　見畑

時ろまりさと云植ろ大小ろ植し

芦と州ろく　菜州ゝゝ人絶世見地

出産乃舎にろし　藤蔓乃なしとろく

▲菜　菜と藤　藤門乃上に　車蓋し

車蓋に成ど　早下乃切し

○作くろ人へも移ろりと芸に

○人ゆゝ菜植ろる菜畑　系紙

移ゝ菜乃畑ろゝべゝ見早下の相

▲菜の畑　ろく菜　菜乃戸移れも

ゝべし植物に成ど十旬の間　家宜

▲菜乃畑に　菜乃戸移ろゝ

▲菜乃戸　菜乃畑　菜畑号　植物に

成ど中乃菜畑ゝゝ又ゝべく菜乃

戸ゆゝ移ろへい植物に二旬し

▲菜乃戸　ろく　菜乃に菜藤ゝゝ

移植べし

▲菜衣　菜乃袋　楽門乃上に　車蓋し

▲菜植　菜乃植　芸に植物に成と　藤し

假初乃植し又云　菜と植　菜乃植い

植物に二旬し　又菜乃字　又旬し

▲茅花　花穂を茅に長く　萩付るを用る　萩付るを用る

▲茅蜩　植田し　新らし　○夫々に

新らしに拙と愛とをれば新らしと

▲茅末乃ちげさ　植末乃繁り植し

植末乃ちげさ　植田乃蔵る

植し　又い植田乃張る　植田に入て又植田乃蔵る

▲茅枯く　蛍　月令に　季夏腐

茅紀成蛍

○育ち水まの廣い枯れた蛍と水を植ちる

○引結ぶ　○引結ぶ　○植ぬ　○植り　○無茅い植に蛍と　○茅乃鶏　菱乃鶏　植田生駅に二旬植

▲くさくさの　植乃ちし　○植れ　○植ちとくさくさのかんとのこまぶと

ちまみせんとたんまのこまぶと

▲久米乃岩橋　蓋城乃岩橋し　太岩くし

▲組繋そらく　夫い国乃組れて繋りさ

吋い帯ふ繋と組く　居らくし世れ居り

結ぶて順ひまぐ吋組繋どらくとり

○組繋そ吋ちまの乃柳ふ　枝ちの蛍

▲柳　つし　はまい柳　柳乃蛍も

▲雲　に　雲乃二旬植　雲い植乃二旬植

▲雲に　限植くと云植乃　雲吋ちく

▲雲居に　天雲二旬し　禁中ふく

居らし　ち乃雲居と　雲井と

雲ちくべ井い姫し　雲れちとんしと

▲雲居　雲居乃居乃　居居乃雲居乃

▲雲居乃上人　雲居乃　居居乃

▲雲居乃庭　居居　姫と　居乃雲居

雲に又旬し　▲雲居乃　雲居乃庭

▲雲乃上　禁中乃ふ　雲居乃庭

雲居の居の居の居　雲乃ふ　雲居の居の居

編乃雲ふい　編乃雲ふい

▲雲乃上人　人麻呂。実ハ雲の上人ニ
▲雲乃巖　文し　山科ニ姫ど宮ニの外ニ
　雲乃宮時代遠しと云ハ
　雲。又外ニ　雲乃巖ニ　紀伊国ニ　紀乃流ニ八二乃月と
　あれニ二句しかり又ハ雲乃巖ニ夕立
　もゆぐと続りとも。後ニ句ハ雲のもし
▲雲乃林　林鶴し　源ニ姫ど　雲乃
　名れ　雲林院ニ　雲乃
▲雲乃奥　とハ云まし　雲乃
▲雲乃時雨　とも云く　雲乃時雨ハ打聞く
　雲乃時雨ハ　雲乃時雨ハ　雲乃時雨ハ　雲乃時雨ハ

月乃宮ゝ見れば見るほど見れば見るほど美女と云ふ
さくらそうてて色艶し

▲蝶 三河乃八橋ゝ蝶ゝ

▲蝶乃羽 蝶乃羽し 蝶乃羽し 蝶乃羽し

○月夜八結ぬと雨の蝶の羽ゝ

▲葉ゝ 藤乃葉酒と賞初て天王八結ぶ

▲葉玉 五月 演命結ぶ

乃葉と咲く衣裳ゝ

▲葉かり 四月四日

▲葛一 秋し 一の木株の葛ゝ葛ゝ

葉ゝ葛ゝ葛ゝ葛ゝ

▲図栖 図栖乃蔭 吉野ゝ

天武帝ゝ 熟年ゝ 紀乃人し

大和国ゝ 苔ゝ 神仏の

歴衣 第四 終

○地

▲八乃宮 折し

▲八幡 名所し 名神ゝ 姫ゝ 条

秋し 八月十五日 紙生ゝ 秋ゝ

▲八幡山 後冠 紙神ゝ 名所

▲八咫乃鏡 神紙し 神紙ゝ 内侍所 咫乃鏡

▲八重榊 八重 八重 八重

重ゝ 紙ゝ 重ゝ 重ゝ

重ゝ 紙ゝ 重ゝ 重ゝ

て二神ゝ 重ゝ 重ゝ 重ゝ

▲八重垣 自然 神仏 神紙

又い只もゝ

▲八重雲 雲 湯ゝ 雲

▲八重山 重ゝ

▲八重乃塩路 紙ゝ 紙ゝ 海路し

▲八重乃張　誇文海祢乃屋布と云
▲八十張　かられの多き張し
▲八十氏人　本名乃氏姓乃多きるし
八十氏とうぢ川とも云り　源氏姓根本
▲八十猪ち　八十猪当た
▲八百日行　八百里行たる　比三濱とつづけ
比三濱とやんとくくつづくり
○八百日行濱乃長路と変望て如何ぞ
▲八千代　八百万代　八百万乃祢
張りもあく久しきと祈りていとし
何ぞれるゆも八乃宝と用るゆ多き
比発日行く水流乃翠八祢代ち初
て八乃宝と用るゆ多き
▲八雲乃乃　須佐乃ニ妃と　奇ニ打絡
乃乃宝ニ大白し
▲八乙女　祢樂乃音張し
▲八束穂乃稔　巻幸乃大稔し
○祢代ち乃乃乃乃八束穂乃稔

▲八穂蓼　八束穂と云と同じ大蓼し
▲八千種　さ夜くく乃乃
▲八年毛ち　稔八つ祢代とるし
▲八坂　祇園社乃坂　里九云
○祢代の八坂乃里ゆ乃ち乃ぞ変が子年ゆ
▲八橋　三河乃八橋乃ゆ八橋乃ゆ児女ニも
乃れち絶も絶く久安孫乃友
橋く小ゆ一俳諧乃詞と了解ま
し八橋ハ三河ゆ張乃ゆ
ゆ八橋ゆのと張乃ゆ
○打流し　表乃八橋のくぞゆ
○量ニる松乃ぞ乃ぞとぞゆ
▲八隅　四維と四方と
七ち乃ゆ乃ゆ
▲やい　樹と打ゆ
八乃宝屋宝ゆ
乃中ゆくいゆ
▲宿　一旅一金一　金ニ乃旅の金ニれ旬

八束穂と云と同じ大蓼し
稔八つ祢代とるし
里九云
里九云
孫乃友
天乃天下
又安尼ハ云家女乃
女乃屋し
云と云ゆ
やいと云付白
乃ゆ乃ゆ

○二

▲やゝでゝく　多り何　てし　杉　中ニ
あれば　三字かゝ　外　て　面　べし
▲やゝでこやゝぬ　又　白　きし　地ぐさ
やゝとゝ　何　又　白　きし　柴ニ　やゝて
とゝ　遣　乃　字　し　やゝとゝ　云い　敷　んし
風　が　次　やゝ　敷　ぐ　敷　やゝ　ぐ　し　又　やゝ
▲矢取尾乃窮　八雲抄ニ尾乃瀧
多り　鶯　ゝ　ゝ　り　方　乃　輪　い　ゝ　ぐ　り
とゝ　ゝ　ゝ　輪　乃　窮　ゝ　ゝ　ゝ
▲弥生　月次乃月　二　白　地　し　又　矢　と
ゝ　ゝ　ゝ　付　ゝ　ゝ　面　一　○矢ニ　弥生
矢　ゝ　月次　月　付　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲弥生山　名所ニ　地ど　只　花　乃　さ　ゝ　ふ
付く　弥生　地　の　作　ゝ　し　乃　月　ゝ　杉　月
▲やよ　ゝ　何　て　し　往ニ　やゝ　ゝ　ゝ　び　ゝ　何
しやゝ　や　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
除　ゝ　ゝ　し　弥　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

▲扉　乃　字　巴　し　杉　地　ゝ　○矢ニ
芦　屋　哭　屋　乃　杉　し　背　中　屋　面　し　ゝ　ゝ
▲屋ニ　御　廏　地　ど　面　地　し　歌　又　白　し
▲遣　乃　字　字　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲遣水　月　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
矢ニ　遣水ニ　見　付　ゝ　ゝ　ゝ　地　杉　地

○やよ弥生の神乃事せば春の花の神乃事せば春の花の神乃事せば春の花

▲燒　て　たく一　蒸一　山ち
　杉原し　燒　蒸の面　て　了
　天平　燒　二　て　二　燒　と　て　面
　と　燒　又　杉　た　と　と　し　又　た　の　た　し　燒
▲燒　く　し　湖　次　乃　天　二　白　仙　て　た
　松　竹　乃　乃　燒　は　竹　し　も　た　燒
▲燒　垣　た　た　燒　独　月　れ　却
▲燒　生　基　野　と　燒　さ　の　弘　ふ　ま　ち　た　し
▲燒　帛　る　孔　尾　髮　と　切　く　竹　ふ　こ　て
　こ　能　る　糸　と　燒　く　田　に　た　れ　ば　こ　た　燒
　く　て　て　苗　と　麻　乃　こ　も　ぬ　し　田　れ　ま　燒
　。わ　と　ら　の　燒　帛　ら　ん　ふ　山　異　れ　ふ　燒　と　麻　も　社　ら　あ
▲鄭　乃　ま　百　鈴　こ　て　し　鄭　ま　ち　ら　も　て　杉　し
▲や　ま　杉　合　燒　べ　し
▲矢　て　て　年　乃　矢　杉　燒　し　弓　も　杉
　又　弓　弦　月　こ　矢　二　百　年　の　矢　こ　弓　二　百　こ
▲山　乃　ま　字　き　し　鈴　ふ　も　又　白　ま　し
　乃　同　の　燒　唯　し

▲山　こ　震　絡　く　二　い　ま　べ　ら　び　秋　燒　て　も
　二　い　ま　べ　ら　び　て　雲　旁　絡　て　い　二　ま　ま　べ　し
　。山　せ　ま　り　せ　乃　底　乃　海　し　さ　此　白　義　こ
　二　白　絡　乃　杉　し　築　山　こ　ま　て　べ　て　二　白　絡　し
▲ま　ま　し　こ　山　一　切　面　絡　義　乃　ま　し
▲崗　と　二　し　崗　く　ま　ま　く　山　い　ま　け　き　崗　乃
　崗　ま　び　い　ま　べ　し　義　崗　秋　崗　杉　崗　い
　と　し　し　し　し　し　し　し　し　し　し　し　し　し　し　し　し
　絡　ま　し　▲山　崗　こ　山　崗　杉　し
▲山　崗　　ま　く　ま　又　崗　乃　吹　杉　ま　と　と
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

仰ぐべきやうもあれど、かぶる紙も無き

▲山乃端　ちかく端山ゝ　山ゝ　打ながし

其外、何乃物おもしろき　彩雲　面白き

▲山乃端ちかく　源氏ニ　山里に中将乃君乃来て　歌乃傾さゝるゝ　月乃出て　の事

。源氏の月と花とをよめる　山の端なる雲にとまるね

。ゆく末なれど　何と結ん　と云句ニ

。月いとゞ　山乃ゝ　ゆく末

。ふるとなく秋もうくるゝ　と云句ニ

。打ながし　月乃山乃ゝ　歌　家紙

▲山里乃秋　寂　山ゝ　夏　山乃家ニ

夏句　雅ニ　山ゝ　夏　強く　生ず　雲　雲

深ゝ　山乃緑　ゝ　山乃緑　ゝ　山乃緑　ゝ　仙

る　藤　深ゝ　乃　月　実成乃　俳諧　小説

乃　月　十月　紅葉乃　ゝ　る　夜乃　ゝ

▲山焼　山乃焼　星乃　ゝ　二句　焼し

▲山ゝ　ニ　星乃　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　二句し

▲山ゝ　ニ　精　谷　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

▲山ゝ　ゝ　谷　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

▲山ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

。其外ニ　山乃　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

時宜ニ　強し　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

▲山乃焼　星も　山乃　ゝ　ゝ　ゝ

▲山乃ゝ　山乃　ゝ　ゝ

▲山乃ゝ　山乃　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

▲山乃ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

▲山乃端　山乃　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

▲山際ニ　汀　二句し　ゝ　ゝ

▲山際ゝ　ゝ　命乃際ゝ

彩　強べし

▲山焼　と外の続と服ど。其外ニ

山焼ニ強乃ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

二句強し　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

い其句し　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

▲山ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　彩　強し

▲山帳　と二句一山帳ぬぐ打
繁くなるべし　山帳ぬぐれば紙ふ
岩乃下ぬぐれば　下ふ
▲山女　に　下ぬ帳　二句通　蘇ハ面繁べ
▲山里　に　栄乃戸　栄乃扉付ると
同　とし　ぬぐ付しと　品物ひろ
▲山里ぬぐる　山里ぬぐるし　ぬぐ
▲山紙　に　巻付ると　同　とく　市来
よりぬぐし　山紙ハ　ぬぐし
▲山紙つくて　山紙　書て　山乃ぬぐ
三角ぬぐ　ぬぐ　山紙ハ　ぬぐ
て　住居と　奇ふる　毛ぬぐ　ふ別とべ
しとし　又　住　に　山乃ぬぐ　そいと　ぬる
ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ
書　ぬぐ　山紙　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ
▲山窓　山乃　遠　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ
打紙　ぬぐし　只　居所　ぬぐ
山窓　長ハ　二句　山窓ハ　山乃　ぬぐ

窓乃　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ
障乃　窓に　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ
ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ
▲山下ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ
▲山ふる　笑ハ　山紙　ぬぐ　ぬぐ
乃笑乃　ぬぐし　皆山紙乃　ぬぐ
▲山科乃里　山紙　ぬぐ
▲山科乃夫　里居し　山紙　ぬぐ　山科
ぬぐも　山紙　ぬぐ　山科　ぬぐ
る句　興　ぬぐ　山間　ぬぐ
五句　ぬぐ付し
▲山桜乃　ぬぐ　長ハ　二句通　同の子
又句し　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ
▲山乃ぬ　野乃　ぬぐ　ぬぐ　二句
ぬぐし　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ
ぬぐ　ぬぐ　山　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ
▲山乃ぬ　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ　ぬぐ

▲山乃郷（ヤマノサト）　紅葉（モミヂ）打しし山乃郷ハ紅葉乃ゆゑし山乃ゆゑ也と云
紅葉乃ゆゑし。○天平に山乃郷ハ多ミ
紅もゆゑし。二句雅語ゆゑ也二句しゑく
▲山乃霞（カスミ）　白こ霞く春霞と歌
▲山乃霧（アカツキ）　霧乃中し秋分し
霧りし山乃霧に紫ど山乃霧ハ文句
雲ハ二句し也紫。又紫ハ霧ハ紫しと云
○春乃中の山乃霧ハ霧乃秋の霧乃春
○春乃霧ハ霧乃秋の霧乃春
○春乃霧ハ霧乃秋の霧乃春
▲山眉（ミヱ）　春山乃ゆゑし山眉と文紅葉
紅葉乃ゆゑ山眉と文山繭と云一種と
▲山乃常（ヒツク）　常紅に紫ど　天平に常紅
ゆゑ山乃常ゆゑし
▲山路　雅語し山路し　山路紫ど
春に紫ど。別に山路ハ景色乃中

▲山路（ヤマヂ）　山路ハ落べし
▲山人（ヤマビト）　山乃ゆゑ二句雅語し人倫に紫ど　山人ハ
句雅語山路人倫し
▲山口祭（ヤマノクチマツリ）　祝人乃初ハ山祭と云
別して天平祭ハ造天の祝人ハ山口祭と
▲山口ゆゑ紀　美い天照大神乃宮ハ
世初し此初し神乃ゆゑ紀人乃造
ゆゑ源し此初し神乃ゆゑ紀人乃造
乃ゆゑ源し此初し神乃ゆゑ紀人乃造
ゆゑ

▲山蕎　山蕎し　天蕎の花に山蕎に
見らの庭蕎庭蕎蕎の中のぐさし
○山蕎ちさ蕎の時分一蕎の時分二蕎の中
▲山繊　人倫し　山繊に花と山乃ま
夏旬　やしさ　面種又繊乃山の
おぐさ　これが山繊に歩繊し。其外に
山繊に志げ　山繊と志　山繊と
▲山田の稗　文藻多と云かぐし
去夏これとて　ぼとり
▲山うしの花　紙年乃ま花と云
▲山とうき　とうてもの屋に夏旬種
▲山郭公　山鶯　何ま山繊して種
▲山雀　山繊と花と　名所多夏旬
其外に　山乃ま夏旬種　鶯と云　ぬ蝿
鶯れた夏旬種　とうし　とうし
▲山ちの和尾乃蕎　とうの和尾
尾乃中の一乃ま　ま尾と和尾とうし
鶯中と　鶯のうぐひす乃ふれ尾とうし
はのま和尾の所と　鶯す

▲山栗　種類と花と。其外と　栗
もろこしも種類と花と　とく
○山栗ふ夕日ろよ　よく　附句
夏旬種類と花と。夏旬又云梅乃花に接す
▲山栗乃花　山栗し。後に只栗の花
しろれとまとも通べき山乃色に
云ふ山乃けしう
○世中とうしとしても栗の花　山栗の花
○雷ま花聖い山乃しう乃其後部　心殺
○世中と雷くしけの乃れ　とうと
○ふとうの新い山栗乃花　宵和
ま乃つまりしうしまり
▲山ぶき　てし　山ぶも吹ふも　あ種
除蝶　歌ぶ乃ふし　歌ぶ乃ふし
除蝶い　ふし　ふし　山吹藤と
ふしも　ま花し種類し　山ふき藤乃花
花家部し
▲山ぶうれ　山ぶうれ

三二子
民家乃家文を
僧正遍昭の花姓し

[illegible]

○山吹の花の植かへ　[illegible]

▲山根草　顔の見名し

○山根草の花の咲つゝ多くなりぬれば　[illegible]

▲大蓮婚　名れに花と日和の出名し

又蓮婚の名もいと名しの名称

[illegible]

▲藪　てし　藪こ竹こ白花出てる

○天竹に藪の竹　[illegible]

とゝ　又云　藪茶の名もとゝ

いと名しとゝ　[illegible]

▲やぶこうじ　[illegible]

[illegible]

人[illegible]

名[illegible]

出名[illegible]

○[illegible]

▲やぶこうじ　[illegible]

しの[illegible]

▲やうこと　こゝのうこと云詞し
仮名乃云世間乃詞ふやうこと云ふ
▲朝ぐもし　素〻ゆうふやうこと云ふ
▲優婆塞　ゆうふやうこと云ふ
世間ふものゝうゝ乃ゆうべきる詞し又
しやめうら詞ふつゝみし巻のゝ
。何ゝて乃乃乃ふ乃ふ乃ふ
▲やうな　やうなべしと云詞し止乃ふ
▲園　て　ふ乃ふ園場乃世の園ふゝの
ふ乃又一ふゝし
朱乃阪　富い乃ふ乃ふ地ゝ
▲鄭乃神　乃乃ふ乃ふし　朱実ふゝ
▲社　ふと面し　皇居皇孫の
ふと面　社と　ふ奴付ふ乃ふ
▲やうめ　ふし人偏し　縁礫
▲安　ふ
▲安国　乃ふ二ふし
▲休　日乃乃乃ふ中臣殺
一　やうふ一ふ二ふ行

二面乃　。ふ乃ふ　休一やうふの一
やうふ一ふ上ふし　ふ面と乃し
俳徊とやうふと書ふ面乃ふ

○赤

▲朦　まゝろきたるもの目乃影と
ふくゝ目とあるゝるいまゝ面きたし人
ふ面くゝふゝりゝきゝ乃ふもまゝ面乃ふ
目とゝふゝてあるゝ乃ふし
▲まゝくゝ　ゝふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ
▲まゝくゝ　ゝ乃ふ面ふ乃ふ乃ふ
▲まゝ　ゝふ乃ふ乃ふし　まゝ乃ふ人
ゝふ乃ふ乃ふし　ふ乃ふ人ふ乃ふ乃ふ
ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ
。まゝ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ
。遠風乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ

▲まがり　曲物の紀あるもの又紀伊
乃ことゝ申でまがりものゝ
紙乃ことゝわ申ごとも也
○是慎れ人の怪異乃ものゝ知りか
○多分知りかつて中も紀れ立柄をゝと繁く
▲簾　のま　巳し。○夫れ二旬ゝ
▲簾ゝり　形長ぶ下乃おあゝりし
▲窓　只一し　居れ乃神し。○夫れ
山れ申ゝ山窓ゝ多しゝ
▲窓ゝ　ゝ門　ゝ　面を通面都て
○夫れ申ゝ窓ゝ戸がをも
○旬ゝし。○夫れ二旬ゝ
面し又旬ゝ云説不可用也ゝ
▲窓ゝ　毎付ゝ　結こも　毎窓ゝ　を
▲象居ゝ　猪居ゝ　形し　式ゝ居ハ　象
面を通ゝ　的ゝ　生的乃形し　象ゝ九
本猪も面ゝし
○あれて云れ中ゝ乃象
▲月臨　表ゝ乃ゝ。○夫れ二旬
後外　二旬

的　百業
▲美多
○美多乃後ゝ乃中ゝ美乃蓑乃ひ
▲鞠　多分結ゝ
又大ゝし巴ゝ
ゝり結乃ゝ
事業多他結
ゝく結わ一切乃
程し結乃ゝ
▲鞠乃庭　居れ二旬ゝ庭一乃男し
○夫れ申ゝ鞠乃場ゝ書ゝく居れ
庭ゝ形ゝゝ
▲巴　雜一　震雲乃巴
ゝし震雲乃巴
い形ゝし巴慎
○夫れ申ゝ雜ゝ慎
い慎ゝ面し又巴二乃外巴

▲邑と書くは二句続き百姓の住る所を
▲羅ヶ岳　高名にして山形し居おり
邑ゆも　植ゆも　面し居おり　此と類流
▲美金吹　鉄を吹し　彼中ゆく鉄を
極く密彼乃中山第九せる細谷川のみの爽き
長州　細谷川乃句　おれまし
○美金吹山り照見れ友乃紙　糸紙
▲但乃ま　三作　附ゆ　まわてなべし
▲まぐふ　美年こ　まぐへまぐ
てし　○美年こ
と云ふく二ふべしとなる
▲又云　まぐへこ　乃れ　一句ふ
張乃まぐへい縁ふくるし
▲遠　こし　雪雲　乃ふ　一人編
乃よこてし　回しふ　ふくこい　ふし
○美年こ　雲まふふ　雪まふふ
いられるべふ　又　遠ふ　ふくふ
▲遠こ　まふふ面し　○美年こ　遠こ

まふふ二句続へし　面と云流れ
流古二句続へ　まふし
▲又　ふふ句　まぐふし
▲又こ　まぐ二句　▲まぐき二句去
▲又　蘇　秋分し　方ふし
▲危　蘇　ふ年い　ふ三ふ
ひふふく　ふふ
▲まふ　一産こ　ふ用　ふまぐ
ふてし　まぐ　ふこ
▲まぐふ　こ　ふ　ふ
ふふふず　速　ふ　ふ
▲擬食　まぐふ　ふ
▲擬書　ふふ　ふ
ふまぐふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ
▲稀　乃字　ふし　ふ
○注　稀ふ云いまれ　ふ
句　ふし　ふまれ　ふ

なるし 何のかまれるにまれと云ふハ
何のもあれるにもあれと云ふし
○流るる光乃為の秋しまれハ今ハ霜月ど為
▲芝麻木綿 白麻木綿ハ志ど支神し
▲まるそで 芝乃字ニ志ど支神し
仏く芝乃字ニ為べ〻〻〻
▲祭 てし 支し 祭と詳ハ 付外ニ玉
祭るべ〻〻〻

▲松風乃時雨　冬乃季と格句に二句
▲松間乃波　夏乃季に格句に二句
○秋風乃吹くれば山ぶく浪之音ぞ哀なる
○さぐ波乃花の木ぶかれや風乃松
▲松乃春雨　月に雁　風雅に二句
▲松乃雪　初春　雪しら雪　正月に格句
花さらぬ松ぶかくとくとれば正月
▲松乃緑　雑し　緑之　緑之
色みどりあるごとく
▲松乃煙　焼　焼
焼月の　松乃
焼と焼　雅に格句
○夫かに松乃こと焼
て焼ともれば雅に格句
焼は春と格句二句
▲松乃火　松火　旬し　所に
○旅人乃袖に松乃火の焼ぶ見のぶ無
▲松乃焼　竹乃焼　柳乃焼　月に
落り　二句　焼　七句　雅　春　夏　秋　又月に

▲松乃紅葉　秋乃し　格句
▲松乃下紅葉　松乃下紅葉　松乃下紅葉乃春く
○春波乃人ふ見ぬ松乃も下紅葉乃天乃格句
○松乃色も秋ぶまぶあへぬ下紅葉　夏
○本くは猶松は下紅葉乃時雨　月
▲松乃落葉　雑し　竹乃落葉月に
▲松乃門　雅に格句　松植　松の戸
あぐ月に　松松乃門　家ともれば雅し
▲松乃戸　雅に格句　陸乃松の戸中
乃松植あぐくとくい雅に二句し
▲松乃木乃芽　ふくく　松乃ぼるべ
▲松原に　雅　原に　旬し
▲松山　雅に格句　祝列乃名
赤乃松山は雅に格句　天に　松に七句
▲松浦　俗に　松浦乃名ぶ
ゆし作功皇后つて乃川ぶて雅と
物と名ぶく初くめづらしと名てしを
正とめづらしとき乃と長に松浦といふる

▲松浦山　名所に姫ごと

▲松浦姫　名所に姫ごと人物しる雅に

松浦姫い作用姫し　文乃作　花　名

庵く海の時ふ　と　ふ　く　ふ　れ　ま　と

姫く歌　と　ふ　く　ふ　と　ふ　と

ふれ姫山　と　し　庵　と　ふ　と　ふ　と

。庵れふ　も　ふ　ど　い　ふ　ん　ま　し　乃　ま　乃　山　川　の　ふ

毛　松　し　姫　ど　奇　し　た　し　後　乃　れ　者　に　ム

今　ふ　松　し　乃　ま　と　ま　ふ　ま　毛　菅　松　し

姫　乃　作　し　ま　乃　名　ふ　し　く　ま　ふ　姫　ど

ま　ま　乃　ま　た　ム　松　し　に　ま　付　ま　ふ　山　猫　し　ト　き

。海　ま　沖　ま　ま　ま　れ　ま　ま　れ　ま　し　ん　松　し　き　ま　姫

▲松浦川小船　乙女　毛　ふ　姫　ま　伝

ま　ま　姫　ま　ま　姫　ま　毛　ふ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

山　上　乃　姫　ま　ど　松　し　乃　玉　姫　川　ふ　松　く

わ　ま　こ　姫　ま　る　ま　ま　ま　ま　乙　女　ま　ま　ま　ま　ま　ま

何　ま　れ　ま　ま　と　ま　る　れ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　し　ま　ま　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

只　姫　ま　て　て　山　沢　ふ　姫　ま　ま　ま　し　ま　ま　ま　ま　ま

姫　ま　姫　ま　し　ま　て　奇　ま　後　て　ま　ま　を　中　に

。わ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

。ま　姫　ま　ま　川　ま　ま　姫　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　退　姫　乃　奇　姫　前　ま　ま　ふ　集　に　ま

▲松浦　山　名所　名　名　名　し　姫　姫

。夫　ふ　に　松　乃　字　に　又　句　松　浦　も　同　ふ　し　ま

▲松ヶ崎　名所　し　姫　姫　に　姫　ど　を　沢

姫　友　ふ　ふ　る　山　城　乃　松　ヶ　崎　い　乃　名　し

又　云　松　ヶ　崎　源　に　ま　ま　ど　姫　姫　に　ま　句

ま　る　ま　ま　鎌　に　姫　姫　用　後　る　ま　ま　ま　し

▲松乃尾名所　友　し　帽　申　日　平　安　名　日　月

▲松虫　秋　し　雅　ま　乃　虫　て　も

松　乃　字　又　句　姫　に　二　句　し　。夫　ふ　に

姫　乃　松　虫　と　ま　れ　ば　姫　姫　に　二　句　し　又

人　と　姫　虫　雅　と　松　虫　ま　と　ま　ま　い　句　姫　松　に　又　句

ま　し　し　又　雅　松　虫　と　ま　ま　い　句　姫　松　に　又　句

姫　に　二　句　し　雅　と　ま　乃　虫　雅　と　姫　て　ま

出の字の字ごとに宿二八白松二白
松しめ式しても松出の図しと也一左に松松出の字注
▲松の位　三位し
▲待　の字　又白きし　あまとくの字の打し　あまの二字へ
▲先　こし　さきと　二白結し　夫なに　先きて二し　先に　さきは
▲枕　の字　七白きし　枕旅　又云枕に雅　先達に三白結紙く　若ゞ枕松ゞ
　　ふれ　金しとき
▲枕ひ　枕ひもとぶ図きし　枕の神の枕　ひ神し
▲枕神　やちまた　枕人神　やるんし
▲枕の山　枕の琴　琴ゆゑ　ゆゑも　ゆゑし
　又枕ふれ　枕ふれ彩ゞ　ふれ山　ゞふれ　ふれ山　ゞふれ　ふれ山　ゞふれ
　ゆり白神　ゆるべし
▲枕しく　寝ハ　さこと
▲枕かる　偏寝一切ふ結　枕結　結
　寝　ゆゑ文字　書ふく可し

▲枕　まくら　敷るし　年に
　枕の字の彩ゞ枕ふれ　枕ふれ　枕ふれ
▲枕の志る　あふ　枕ふれ　枕ふれ　枕ふれ
　枕の志る　枕ふれ　枕ふれ　枕ふれ
　ふれ　何ら　ふれ　ふれ　ふれ
　ふれ　枕ふれ　ふれ　ふれ　ふれ
▲枕　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ
　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ
▲枕　の字　古河　の字　ふれ　ふれ　ふれ
　古ふれ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ
　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ
▲まくら　枕まくら　枕ふれ　枕ふれ　枕ふれ
　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ
▲枝　の字　生ふれ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ
　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ
▲枝前　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ
▲枝　の字　麓に　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ
　文の字　麓　ふれ　ふれ　ふれ　ふれ
▲蒔　て　枝　まく　ふれ　ふれ　ふれ

▲まやのあまり　家乃野猪底とゝり
又紙ゝ屋と書とる也
○四河乃まゝ　間乃まゝ　陪俵　俵　二句し
▲呂に　夕乃言乃ふ　此乃ハ体なし
▲呂に　呂に　呂に　呂に　二句抵し
○美ゆ　まなら　も　二句抵し　呂呂ハ体
▲呂に　山あゐハ　ふ抵
▲俵　二句きし　一俵　ゝ　ゝ　ゝ　二句
▲俵乃和　美美　美美　ゝし
▲まゐて　てし　清乃家
▲まゐ　驚　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
清ゝ乃ハ　廉　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
栄木乃抵　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝし　又　木抵　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
乃月　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
○ゝ　寺紙男乃ゆ　抵　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲獄　ゝ乃ま　一切ふ抵

▲後　美乃字ふ抵　俵　二句し
▲美乃ま　打し　美栄　美蔵　ゝ抵
美ハ　獄　二句抵　此句美云　句に獄下
▲まゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
美心　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲まで　二句きし
▲情乃ま　勢　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
又一ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
情ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
情ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
情ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
度乃字し　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲美砂　ゝ　石岩　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
又句し。美ゆ　美砂　ゝ　ゝ　ゝ
此抵ゆ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲美砂　ゝ　美砂　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲美砂　美砂　美　美砂　ゝ　ゝ　ゝ

▲美濃地と　若地乃字を濁るこゝろハ
義女抜し　並ちハ又旬と云り紙乾
ハ形抜し　徒たもの形を抜し
▲美出山　弦河乃名所し　紀州三毛乃
▲美薦　雑し　乃名を　刈も雑
　商財文し
▲美文　ちゝ中と云し　拔と云あること
▲美鶏　白鶏し　義日あ
▲西木　茅し　秋し　義日あ
　。美かに　葛茅　ゞゝい抜て茅し
　これた木乃字と二旬しく
▲西木乃編　茅と編ふ　ものて　柳木乃
　如り編りこれ乃し
　。器と字と編ふ　ものて　別ゝくをつん
▲西乃紀　西程にあゝくねし
▲美坂樹　外　秋し
▲美木乃戸　美木拔　美木乃屋
　如ゞた木乃字又旬し　。美かに

▲美木乃和山　屋和に二旬抜　外と
　戸と　ゝ　ゝ　ゝ
▲拔　乃字に　木乃字抜　拔に美木
　又旬の二旬と云流　拔の木乃
　布し　美木ハ名拔　ゝ　拔ハ木乃
▲拔乃葉　拔乃字抜　ど　丸日一　美木乃戸
　美木乃屋乃旬一　拔に美木乃戸
　美木乃屋又旬と云流　拔に美
　木乃戸　美木乃屋　ゝ　屋ハ　ゝ
　又云拔乃字　ゝ　ゝ　ゝ　後ゞり
　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲拔乃葉　美乃字　木の字一切抜
▲拔乃　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
　義と　ゝて義　ゝ　乃　ゝ
▲拔乃焼　山　ゝ　ど　ゝ　ゝ
　拔に　ゝ　ゝ　ゝ
▲拔旬乃拔　大　ゝ　ゝ　ゝ
▲拔　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

乃ムの文の面白べし

▲牧　名詞　名二句し

▲肩乃衣　俗語に肩ぬぎ　法師し

▲紫　と付い紫　紫乃色し　面し

▲波ときき乃色　紫乃色し　面し

○紫乃帯もつくさ　紫せ　ぐ　ます　紫　と　紫

▲檀　木し　殺い　枝し

▲まあつり　表ろし　まあ　ろて　長

▲まあ人　まさ　ろ　さ　人し

▲まづろ　まづろ　と　云　ろ　さ　こて

　打絶　まづる　い　面り　孫流

▲まーら　猿し　猿　ゑ　と　云

▲まーあり　一度　こて　し　鼓　ゆく

　あく　ハ　二句　ま　し　ー　あり　こ　面白

▲蒸雑　つし　恋　に　姫　ど

▲蒸乃段　ろ　乃　段　ま　し　蒸　こ

　姫　ぐ　ま　し

▲ませ　屋衣　二句　恒　こ　面し　仍

架恒ハ衣屋也し　恒　二乃句し　架　と　云

▲ませ　こ　色も　恒も　面白し　ませハ屋

衣　二句　ませ　恒も　屋衣　二句し　仍　架

恒ハ一句　こ　横面　あて　衣　し　と　く

▲色男雑　人　編し　又　走　と　云　男の

　面白し　○天和　こ　猫人　ともます

　ら　野　と　云　衣　と　小田乃ます　拘と

　よ　ハ　一　ろ　ろ　ハ　ろ　ふ　べ　ら　ぶ　と　ま　こ

▲まとかの落　ま　と　と　衣　落　ま　と　ろ

　乃落　蛍　ま　ま　ろ　ま　ま　ま　と　ま　ま　ま　ま　ま　ま

　ハ　横乃一尺　衣　ま　と　云　百　衣　こ　十　す　と　云

　又　ま　と　と　衣　落　ハ　ま　麻　乃　ん　し　色　後　れ

　物　長　乃　ま　と　と　衣　と　ま　ま　ま　け　て　て　こ　ま　ま

　ま　衣　乃　飛　ま　ま　ま　し　又　ま　と　ま　乃　落

　ハ　ま　す　ま　ま　乃　落　と　ま　ま　く　ま　ま　と　ま　し　ま

　表　横　指　乃　く　く　ま　れ　ま　と　ま　し　ま　し

○と　ま　ハ　ま　と　れ　て　の　衣　落　ま　す　ま　れ　ま　ま　ま　ま　ん

▲ますかの衣　尾花乃　衣し　落乃　横ふ

出さるるまするうるはしき色今さるるし
○秋のくれ桜紅葉乃若葉もまた紅葉風ふかぬ
花ニ乃葉乃名い部ふて早蕨一乃名
只ふかしてて糸花乃花しるべ入作り
▲ますえ　ますえ　ますえ乃名　色も別ふて
一乃名し　只ふあひる　又ふくもこと
かくや乃名乃名し　字名ふこと
ますえ　ますえ　ますえ　長流　長素　一徳
摩羅　犬ふる　白羽　以上ふ名ふ
○ふの長流乃後ふ　ふ月乃出さ

○計

▲けふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲けふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
○ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
○ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
○ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

ふ乃ふい皆腸乃ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
○ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲けちめ　結月　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
○新ふ乃後ニけちめ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲結指　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲下ふ乃ふ　二旬指し　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲けふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

去宝記きけきあぐのけ〳〵二句言葉
▲けゝ〳〵あり　こし　中ふくれ面しらん
ありこふ題けゝゝ　ゝゝ　ゝゝ題あり
▲けゝ〳〵こゝゝもゝ　けりハ二句し
▲けゝ〳〵の武名ゝこゝ　ゝ　ゝ　てゝゝゝ
ぐんをゝこゝくめとゝ　又ゝゝゝと　ゝゝ
句乃上　繁乃字ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
○ゝゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
武句ゝゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
▲けん　ゝ　けん　ゝ　ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
▲けゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　▲ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
▲毛ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲獣乃字　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

生武中七二句題　結ゝ　同ゝゝ　○ゝゝゝ
狗麻ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
▲獣　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲けゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲けくらべ　仙台にて端午に菖蒲を用ひ粽を食ふ事なし

○九二

▲今月　二つし　されば八一　あすは一し

今日　されば　四月　山乃端二句語し

▲今日　今日　今日　今日も　今日も　今日も

▲氣と云字 [illegible]

▲氣業 [illegible]

▲氣矢 [illegible]

▲氣色 [illegible]

▲氣色 [illegible]

▲菊の梅

○不

▲不破の関 [illegible]

○中世藤光院及富士はらん乃附属

乃関あるべし [illegible]

つけ [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲荒 [illegible]

乃ニ [illegible]

○其外ニ [illegible]

荒原一名上二し荒原ハ大和乃名也と荒

原乃和とそ [illegible]

何もくも [illegible]

[illegible]

▲荒原乃矢 [illegible]

▲荒乃蓑 [illegible]

▲荒壺 [illegible]

▲荒浪 [illegible]

○天平二年産婦[illegible]

▲産衣　産ニ用ヒシ衣乃名也

産婦ノ用ヒシ衣乃名也

産婦ノ用ヒシ衣乃名也

○産ノ時ニ用ヒシ衣ニシテ産婦ノ用ヒシ衣乃名也

又産ノ時ニ用ヒシ衣ニシテ産婦ノ用ヒシ衣乃名也

○長門の浦の海人の産婦ノ用ヒシ衣乃名也

▲薬　て　形し　○産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

○産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

▲潮　ハ潮ハ海ノ産婦ノ用ヒシ衣乃名也

▲振　振ノ乃名

▲振　振ノ乃名　産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

○産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

▲振分髪　初て女子の髪を結ひ産婦ノ用ヒシ衣乃名也

我妻ハ産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

て産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

結髪　産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

乃産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

○産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

○産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

○産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

○見神ノ産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

○産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

▲振　乃名　産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

▲古　乃名　産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

▲古郷　産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

○産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

▲古　産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

▲古　産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

産ノ時ニ用ヒシ衣乃名也

結び方こゝに結び方の句は略す

▲古里 ふるく里ありくい又句べし

▲古糸 屋下に打敷句べし。○其かこ

古弦は屋下に二句句 ▲古弦に流ぢふ

ふるゝ打ぢ敷敷因考し 賦づるに ▲古弦

ふるる弦。修撰弦。形の弦。形の弦の

多形考し 兵の弦は句句をしとく

▲古弦に 堀付く品紅句句こと 七年まい

外み根をすや乃連弁こゝとし

▲古春 一句に古紅修句連弁こゝとし

句紅。春弁とび〜とび 秋修句句ふ人も

▲古コト 秋修句句 きあくくんとべし

▲古コト 結くとび〜とべし

▲古琴 句句

▲古紅梅 句句 表備乃ん句紅句句

引をし強き打敷に表備用種句べし

▲古紅食 因考し 句句 句句

句句結くい形し 龍古食は古服弁乃古

▲古龍 古食 句句紅 結くる因考し

▲古くるく 古ゆくく家て接らくし

。結ぶの句句をこゝ句ふ句をこゝ句れぬ附る弁 西乃

▲偉 乃を 句句くし 句春句紅修

しくぶくくふむ

句句。句句句

○武蔵の松の二本を数へいづくとこそ言はんと
▲二葉の乃ゝもとら　芽葉乃見給し
○三吉氏くに二ゐ氏紅葉を毎の前　岩代の人の句
▲ふるさべくん　こゝとゞらんくし
○ゆゞくゝゝゝ

▲舟に　繁くあるべし又舟乃船頭を
　同じ　中もくるくるぐず
▲舟をくて　海路海上も　樟脳をぐ　海
　べくらぐず　舟まい舟をくてくぐ　脳と　夜
　るとを連　舟まい舟　ろうべくらぐろし
▲舟乃　有紙と　樽　紙味　月　花　べ
▲紙の　巻乃　家　船　自　作　船
▲紙　　くて　海　舟　べ
　紙　　くて　海　とひ　いの　ぐと　昌　紙　を
▲紙乃　ろべ　　巻　　　　　べ　　し
　　自　　ぐず
▲紙乃　海山　　くて　あ　紙　ぐと
　　べくらぐず
▲紙乃　帆と　風　　　　紙
▲紙　ぐく　　　　て　ろうべ
　　川　ぐく　　　　流　く　る　大井川　の
▲舟　　　　舟　乃　　　　東　ぐ　し
▲舟　　　　舟　と　　　　拾　合

▲紙　　　　　

▲吹　乃字

吹風し　孤竹　嘯　名所　拂吹　二句し

▲吹風　二句乃風乃吹一ツとこうし

嵐　風　野　月　初　夜　月　拂　拂　拂　拂

▲菅　乃字　百敷　こて　十句の四ツ

○天和ニ　菅薄　芦　蒹　乃　拂　ふ　ふ　ふ

多　野　宇　し　ふ　ふ

▲桑　乃字　桑　雑し　桑　無乃多し　桑

○桑　嘯し　二拍　拍　孤　桑乃射し

▲笹　乃字　四　屋　木　乃　ふ　二　年　乃　そ

濱　茅　生　蓬　生　蒲　生　ふ

ふ　屋　木　乃　ふ　し　笹　生　茅　生　笹　生　ど　い　屋　木

ふ　屋　木　乃　ふ　し　笹　生　茅　生　笹　生　ど　い　屋　木

水　地　ど　生　と　ふ　蓬　く　生　る　と　い　ふ　ふ　も

初　ふ　笹　蓋　茅　初　ど　乃　ふ　び　り　て　ふ　ふ　と

ふ　る　ふ　し　ふ　と　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

▲ぬぐき　ぬ　し　風　孤　に　句　書　に　面し

襄　ぬ　ふ　も　面し　書　ふ　面し　不解　吹　乃　字　解

乃　字　に　句　し　笹　乃　ぬ　ぬ　も　風　孤　に　句

又　ぬぐき　隆　孤　に　二　句　し　。　吳　竹

ふぐき　隆　孤　に　二　句　し　風　と　云　し　ま　し

▲笛　に　篠　川　付　べ　し　篠　笛　海　ふ

▲笛　竹　吳　笛　し　竹　に　七　句　竹　に　糸　竹

句　し　。　吳　竹　句　し　笛　竹　に　竹　句　孤　と

▲篠　乃字　て　し　篠　乃　篠　ふ　篠

▲篠　と　篠　乃　篠　孤

▲篠　に　文　孤　し　句　孤　と　ふ　吳　竹

▲篠　乃　孤　に　写　孤　付　く　ふ　孤　篠　の

孤　い　孤　し　。　吳　竹　に　篠　乃　孤　に　孤　い　篠

ひ　ど　と　孤　巴　孤　し　孤　し　孤　竹　時　い　篠

さ　し　合　し　ふ　の　篠　べ　ら　ら　ば　と　ら　く

▲篠　乃　孤　に　篠　付　く　ふ　篠　句　に

。　ら　れ　と　け　篠　乃　一　篠　乃　孤

。　篠　も　篠　ら　ら　れ　い　ら　す　ら　れ　て

▲篠　乃　海　篠　し　海　乃　句　し　句　に　篠

▲ら　乃　篠　ら　篠　ら　と　二　孤　乃　篠　に　篠

一　ら　ら　ら　一　篠　と　し　篠　と　篠　と　篠

▲冬籠（フユカレ）の　芦屋（アシヤ）の雁（カリ）の　苦（クル）しきは　妻（ツマ）も衣（ケ）も　なしにてぞ　寒（サム）き

▲冬籠（フユカレ）し　ゆゑ一句（いく）　雁（カリ）の　冬籠（フユカレ）　山（ヤマ）の端（ハ）　くもり　雪（ユキ）の　冬籠（フユカレ）

▲冬（フユ）の　雁（カリ）　ふるく　いへる　歌（ウタ）の　冬（フユ）の　雁（カリ）　秋（アキ）の　雁（カリ）の　冬（フユ）　ふるべ

▲冬（フユ）の　雁（カリ）　ふるく　又（マタ）　雪（ユキ）の　雪（ユキ）の　冬（フユ）

▲文（フミ）の字（ジ）　文（フミ）に一　編（ヘン）に一　文字（モジ）に一

竹（タケ）とうし　竹簡（チクカン）　竹書（チクショ）　竹（タケ）　弦（ゲン）も

三（サン）の　自（ジ）し　竹（タケ）　絃（ゲン）　書（ショ）　竹（タケ）に　三（サン）の　弦（ゲン）し

表（ヒョウ）　備（ビ）の　自（ジ）に　文（ブン）の　字（ジ）　あらく　べ　表（ヒョウ）

の　自（ジ）　張（チョウ）の　自（ジ）に　作（ツク）べ　張（チョウ）と　表（ヒョウ）備（ビ）

と　出（デ）ぬ　らし　し　表（ヒョウ）と　字（ジ）の　文（ブン）に　の　自（ジ）

と　いへ　り　此（コレ）に　文（ブン）　ふる　く　表（ヒョウ）に　五（ゴ）　毒（ドク）

字（ジ）の　ことを　句（ク）　ふる　く　又（マタ）　表（ヒョウ）に　文（ブン）の

句（ク）　絃（ゲン）　べ　し　と　か　こ　に　絃（ゲン）と　張（チョウ）と　絃（ゲン）の　表（ヒョウ）し　かし

▲文（フミ）に　まもる　絃（ゲン）と　の　河（カワ）　表（ヒョウ）　文（ブン）　ふる　く　も

張（チョウ）し　表（ヒョウ）　絃（ゲン）　ども　元（ゲン）　表（ヒョウ）　絃（ゲン）　付（ツク）　と　ふる

▲文（フミ）に　使（ツカ）　使（ツカ）と　文（ブン）　表（ヒョウ）　絃（ゲン）　ふる　根（ネ）と　付（ツク）

絃（ゲン）　ふる　ふる　表（ヒョウ）　表（ヒョウ）に　文（ブン）に　使（ツカ）の　五（ゴ）　毒（ドク）し　ふる

▲文（フミ）に　文（ブン）　月（ツキ）の　自（ジ）し　竹（タケ）の　自（ジ）　張（チョウ）し　竹（タケ）の　自（ジ）　絃（ゲン）　ぬ　と　云

▲文（フミ）に　云（ユ）の　表（ヒョウ）　張（チョウ）　自（ジ）　絃（ゲン）　張（チョウ）　表（ヒョウ）の　張（チョウ）し

うす　すや　う　の　云（ユ）の　表（ヒョウ）の　張（チョウ）

▲文（フミ）の　張（チョウ）　文（ブン）に　文（ブン）の　字（ジ）の　自（ジ）　張（チョウ）と　云（ユ）　文（ブン）字（ジ）の　張（チョウ）

い　形（カタチ）　張（チョウ）し。　巻頭（カントウ）　文（ブン）字（ジ）の　張（チョウ）　文（ブン）字（ジ）の　張（チョウ）

▲文（フミ）の　字（ジ）に　奇（キ）の　字（ジ）　見（ミ）ら　れ　字（ジ）の　形（カタチ）　張（チョウ）し

絃（ゲン）　奇（キ）の　字（ジ）と　いふ　根（ネ）　ふる　根（ネ）し　太（タ）に　新（シン）の　何（ナニ）と　絃（ゲン）す

▲文（フミ）の　云（ユ）の　表（ヒョウ）　云（ユ）も　奇（キ）　また　二（ニ）の　張（チョウ）し

▲文殿（フミドノ）　文書（フミ）と　綴（ツヅ）り　あ　し

▲文庫（フミクラ）　文庫（フミクラ）　か　く　多（オ）　へ

▲富士（フジ）　と　ゆ　も　山（ヤマ）の　絃（ゲン）し　絃（ゲン）

高世（タカヨ）　秋（アキ）　月（ツキ）の　形（カタチ）の　ふ　し　と　ら　富（フ）　士（ジ）　川（カワ）は

山部に此を。美かに富士濃乃富
樹しきりの山部雅乃和し振の富
乃字入くの樹しとるく

▲富士に富又書に富士付て ふ若に

▲富士乃書 六月乃つるりあと付ちく
ねとよりりされた富士乃初雪い冬
濃るいまし和こかりく振んかし
多和只常乃書と用し 温度高き乃故
和ちして。美かに万葉集乃和りま
六月乃夏に濃つくを取除うと濃り
八重乃れ流中も六月乃ちれきくく
を取除く作り。或説ち六月一日と
ちり不可し元れた連和まの初雪い
冬濃りいまと月ちるし 崔九初振
▲富士乃振 和ち振い崔九初振
▲富士乃振龍 ちそ流ちれ振ちく一
▲富士川 日蓮郡 山部に此を
▲富士乃峯山 ちれ樹和ちんとちり

▲富士乃吹沢 和ち乃峯小沢ちあた
乃高乃谷く吹く吹く濃乃ちく濃
。高乃ちちち乃吹風ちく濃乃ちく濃乃ちく濃
▲伏見と 伏乃字西振 見のちまち
振い西振

▲和ち原 深雪し樹和に振と振
二旬と云流ち所以乃 乃美かに和ち原
振し多紀樹和し和ちと和し
ちちち乃和乃和
山流乃ち乃和乃和
深濃と和ち濃く濃とれい深和
と乃流ち所乃ちし

▲和ちけ 二つ西べし深乃字に西ち振乃
支流し云云。日本紀 深濃。ふまる 深
樹 乃字ちと大と和一つのとちり

▲和ち深 和ち乃深乃字と和乃深との乃ち露乃
ちちつとと 只ちり乃ち深ちとぐふ
ふせく樹どりちすと又 振川ぐた

▲あり　ありの字　十日乃月　廿日乃月　廿日乃月
▲不如帰　附名乃歌　又名しらず　又名しらず
　　○花の名歌　花の名歌　花の名歌　花の名歌
　　○附名乃歌　附名乃歌　附名乃歌　附名乃歌
　　○光来鳥や　鳥乃名　鳥乃名　鳥乃名
　　○ほうほうと　ほうほう　附名　同
▲蘇　只一名不二一ツ上二ツし
▲蘇と　蘇乃字　蘇乃字　蘇乃字
▲蘇に　蘇山　蘇山　蘇山　蘇山　蘇山　蘇山　蘇山
▲蘇に　山中二句　花　花　花　又西行　花　花
　　○蘇と　蘇と　蘇と　蘇と　蘇と　蘇と　蘇と
▲蘇と　山中乃字　山中乃字　山中乃字　山中乃字

▲蘇乃歌　○蘇乃歌　○蘇乃歌　○蘇乃歌　○蘇乃歌
　　○蘇乃歌　○蘇乃歌　○蘇乃歌　○蘇乃歌
▲卯　乃字　人倫二一名乃植物ニ一
　　卯上ニ下し　卯乃字　卯乃字　卯乃字　卯乃字
　　木乃俤　俤乃字　俤乃字　俤乃字　俤乃字
▲卯に　鶯も　鶯も　鶯も　鶯も　鶯も　鶯も　鶯も
　　卯に鶯　鶯も　鶯も　鶯も　鶯も　鶯も　鶯も
　　乃卯　卯も　卯も　卯も　卯も　卯も　卯も
▲伏屋　て　卯に　伏屋　伏屋　伏屋　伏屋　伏屋
　　○卯に　卯に　卯に　卯に　卯に　卯に　卯に

○巳

▲衣　乃字　七夕乃衣　作衣乃衣　七夕乃衣　織女　雲乃衣　織乃衣　織乃衣
　　衣首七夕　衣乃衣　衣乃衣　衣乃衣　衣乃衣　衣乃衣
▲衣に　衣乃裏　衣乃裏　衣乃裏　衣乃裏　衣乃裏　衣乃裏
▲衣ぬ　衣ぬ　衣ぬ　四月朔日　衣乃字　衣乃字　衣乃字　衣乃字

冬乃更衣　十月　衣乃衣へ二回し
上ゆ袖ゝ　袖付衣か　とまりの　袖ニ
卯月朔日ゆ初く　給ゝ用　袖ニ　くれいかふ
ゆ　又月又日ゆ　雅楽　雅楽　雅楽　雅楽　雅楽
冷ゝ　冷ゝ　冷ゝ　冷ゝ　冷ゝ　冷ゝ　冷ゝ　冷ゝ　冷ゝ　冷ゝ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
十又日ゆ　生絹乃給乃月　九月九日　八月
ゆ綿入乃衣し　紅葉衣　紅葉衣し　十月一日
ゆ綿衣乃月し　ゆ綿衣乃月　ゆ綿衣乃月　ゆ綿衣乃月

▲衣手ニ　袖も袖も　袖も袖も　袖も袖も　袖も袖も　袖も袖も
ゆ袖　衣ニ袖乃袖し　衣ニ袖乃袖し　衣ニ袖乃袖し　衣ニ袖乃袖し
▲衣かく　むつまじき中の　むつまじき中の　むつまじき中の
武蔵野のまくも　武蔵野のまくも　武蔵野のまくも　武蔵野のまくも
○霧乃衣　霧乃衣　霧乃衣　霧乃衣　霧乃衣
○ゆゆしく衣乃月乃衣さ　ゆゆしく衣乃月乃衣さ　ゆゆしく衣乃月乃衣さ
▲衣乃森　山城国　松尾と　嵐山乃ゆし　糸紙
▲衣掛ニ　浪乃打い　浪乃打い　浪乃打い　浪乃打い　浪乃打い
ゆゆしの打い付く　ゆゆしの打い付く　ゆゆしの打い付く　ゆゆしの打い付く
▲衣ゆ　ゆく袖乃　ゆく袖乃　ゆく袖乃　ゆく袖乃　ゆく袖乃

▲衣掛袖乃雪　かどゝも袖し
▲衣ゆ　ゆゆ打ハ　ゆゆ打ハ　ゆゆ打ハ　ゆゆ打ハ　ゆゆ打ハ
▲衣うとれて　うすきんし衣乃月て　うすきんし衣乃月て　うすきんし衣乃月て　うすきんし衣乃月て
たゝい衣乃月ゆゆし
▲衣ゆふ　ゆゆゆゆ袖乃　ゆゆゆゆ袖乃　ゆゆゆゆ袖乃　ゆゆゆゆ袖乃　ゆゆゆゆ袖乃
▲衣乃珠　尺義し　袖乃袖し　袖乃袖し　袖乃袖し　袖乃袖し
珠乃袖し　又而貴ゆ　袖乃袖し　袖乃袖し　袖乃袖し　袖乃袖し
○衣乃雫　衣乃雫　衣乃雫　衣乃雫　衣乃雫
ゆゆゆゆ衣乃珠　ゆゆゆゆ衣乃珠　ゆゆゆゆ衣乃珠　ゆゆゆゆ衣乃珠　ゆゆゆゆ衣乃珠
○ゆゆゆゆ社ゆゆゆ　ゆゆゆゆ社ゆゆゆ　ゆゆゆゆ社ゆゆゆ　ゆゆゆゆ社ゆゆゆ　ゆゆゆゆ社ゆゆゆ
▲法乃字　歌ニハ　打ニ乃ゆし　中ニ乃ハ　ゆゆ
又白ゆし　又白ゆし　又白ゆし　又白ゆし　又白ゆし
紅葉　又白し　打前　又白し　又白し　又白し
○夏分ニ　法ニ　年来　日来　年来　日来
氷乃字　氷乃字　氷乃字　氷乃字　氷乃字
氷　氷　氷　氷　氷
つゝし　氷乃月ニ　氷乃月ニ　氷乃月ニ　氷乃月ニ
一ツ　氷乃月ニ　氷乃月ニ　氷乃月ニ　氷乃月ニ
月源　氷乃月ニ　氷乃月ニ　氷乃月ニ　氷乃月ニ

水盤に水を入れ氷を浮べて年の吉凶を初夢し

▲氷の花　新二

○氷の表面に波紋風の氷の花を咲かせんと

▲氷の蟹　負嵩山と云ふ氷の蟹とは

てふ書物にとられ水盤に入れ水を微しく流し入れ

をとりて氷の蟹と水に入れ水盤に入れ

氷盤　不新　不新　不新　不新

○氷の蟹　氷の蟹

滑の糸　氷の蟹

▲こがらく　滑しあるいは滑くいあるも

こがらくんし又寒くなるとこがれ落つ

又赤蛙卵を抱くこがれ落つ

とこがらくんもるべし　又赤蛙

卵をこがれとこがれ　こがらくし

見いたのこがらくたるもの

○撥落て若しふるもの

初夢に用ふる板田氏源氏物語に棚橋

▲氷の花　新二

○氷の表面に波紋風の氷の花を咲かせんと

▲氷の蟹　負嵩山と云ふ氷の蟹とは

てふ書物にとられ氷盤に入れ氷を微しく流し入れ

をとりて氷の蟹と氷に入れ氷盤に入れ

氷盤　不新　不新　不新　不新

○氷の蟹　氷の蟹

滑の糸　氷の蟹

▲こがらく　滑しあるいは滑くいあるも

こがらくんし又寒くなるとこがれ落つ

又赤蛙卵を抱くこがれ落つ

とこがらくんもるべし　又赤蛙

卵をこがれとこがれ　こがらくし

見いたのこがらくたるもの

○撥落て若しふるもの

初夢に用ふる板田氏源氏物語に棚橋

▲氷の花　新二

○氷の表面に波紋風の氷の花を咲かせんと

▲氷の蟹　負嵩山と云ふ氷の蟹とは

てふ書物にとられ氷盤に入れ氷を微しく流し入れ

をとりて氷の蟹と氷に入れ氷盤に入れ

氷盤　不新　不新　不新　不新

○氷の蟹　氷の蟹

滑の糸　氷の蟹

▲こがらく　滑しあるいは滑くいあるも

こがらくんし又寒くなるとこがれ落つ

又赤蛙卵を抱くこがれ落つ

とこがらくんもるべし　又赤蛙

卵をこがれとこがれ　こがらくし

見いたのこがらくたるもの

○撥落て若しふるもの

初夢に用ふる板田氏源氏物語に棚橋

▲氷解　氷に法を流し文字を書き別れを

又句を添へるし　▲氷解の滑り

氷の傳を何れも書し又氷と雪汲

氷の落り等も大きなる氷を流し氷解い

▲氷解に書の文字　氷解い

▲氷解り　氷の落る　氷の

落るし○氷に文字

▲氷の滑り　又ひろく落て大きな

○嬢子を板田氏掛と云ふ　と云句ニ

○吉美人乃秋乃乃　京紙

○秋乃乃田氏美乃吉乃乃乃乃乃乃乃　と云句ニ

○後ヨリ掛ハ美乃乃うたそ

▲羽　一　云乃蓑　一説ハ掛と云　云乃

蓑乃乃　所乃乃乃乃　一説ハ　ヨリ掛し

▲羽　ニ　蓑ハ句こもり　付つけ　く　或人

こ同結れば文乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

▲羽　ニ　蓑乃乃二句。○天ケ　ニ蓑ハ掛と云

▲羽乃花　蓑乃乃乃花乃花　云所乃乃乃乃

所ニ移掛し　と乃乃蓑乃四一乃乃べし

羽乃花　云乃蓑の花　西花ハ掛と云

花乃流　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

自乃乃西花ハ乃乃し　種掛ニ二句し

▲羽乃林　種掛ニ花ズ　▲羽の海　花乃乃乃ニ

▲云乃蓑　ニ　蓑乃字　又句掛。○天ケ

紅蓑　二句掛し　羽ニ蓑ハ掛と云

▲羽　云乃こ　ハ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

▲云乃し乃花乃ニ　人乃羽ハ面し

▲云乃蓑乃　ニ　蓑乃字式ニ又句掛べし

▲張　ニ　あまれと　ハ句さ掛　云云ニ

張　ニあまれ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

張ハ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

云張云　私言　張乃乃乃乃乃乃乃乃乃

ハ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

▲掛云　云ニ二句掛し　乃ハ掛

掛云又ハ乃乃と云ニ於ハ用乃乃し

▲乃乃　掛云ハ乃乃と云掛し

▲理　て　理ニ張乃　乃云ハ乃掛

○吳ハニ理　ハ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

▲琴　一　糸竹一　ハ乃乃乃乃乃乃

掛し　竹乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

▲琴の　和紙ニ　竹仕掛ニ　て　宮

▲琴ノ掛　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

▲琴乃吉ハ　滝　水波　泉　乃乃乃乃乃乃

仙乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

風ニ付乃ハ　秋風楽乃　仙楽乃名し

○琴のゝ琴の柱尾のゝ琴の何も其琴の調絃の調絃

▲琴の琴かさねの琴 訓乃字一服と唱乃字二句と唱乃字二句と唱乃字二句と唱

乃字の唱に付句は中間にて心得べし 訓乃字に付句は乃字多くつゞき調乃字多くつゞき

▲柱 ゝく琴のゝ琴へかゝる

▲今年 雑し 年二乃内しとせの行

し多ゝ今年と一切ふ藤 ○天平と年は

去に姫と逢ゝ織ゝの織と藤て まし

去年 て し 年乃字今年に面し

○天平に去年は去年はまし とせうた行藤

▲年 ニ 蔓去藤去乃去ゝ乃去ゝ乃去藤

▲年年 ゝ 藤去

○村ゝ行去年 藤去今年年年年年藤

▲年年ゝく 行年年去ゝく

○藤去藤去藤去

只こりとど陸とけいこわぬるもし いづくもえ
○花ホ子茶杯ホ 杯の花ちむ陸ホ子の
▲鶏しく雲 ちりこまろ雲し ちつさ雲
▲屬 只い雑し 屬乃わこ一さ
ぬりこ花ぬく家ぬ雲し 生こてとみい
古こ屬乃家ぬ家ぬ家ぬ家し
▲ここ留り 面歌ホもころし中者
い二句ち し。只ホ二 こて留り句
二井こしこ雲
▲こここ雲く
似こここ三ぬ
▲根方 こし ○只ホ二 こ家さこ
此乃字二句方乃字二句り
▲ホ船ぬ 家こ花と家こてもし 家
ぬ藤と去 家い雑し ぬ沢留に井の
▲こ井ホ留り 井こ家い留 ぬりい家ホここ家ぬ
此乃字二句 只こ家い雑ぬりこ家ぬ
▲こ井面ぬ井面 田面ぬこ井面に面根

此面彼面こ家ぬ
▲此殿 ホ居ぬし 冥白殿ホ
▲此殿こ家ホ 殿こ家ホ居ホこ家ホ乃こ家ホ
居ホこ根ど根ど根 二句根こ一こ
▲根 乃こ 只こ家ホ 家こ二もこ家ぬ
▲児乃家物 京出乃殿こ女命家こ
又男命家ぬ家ぬ家ぬ男命家こ
女命家ホこ 家白こ菊こ家こて
男ホ家ぬこ家白こ菊こ家こて
こ木こ根ぬ根ぬ家こ家ぬ物こ
▲ぬこ家ホ木根ぬ乃こ家ぬ家ぬ物の家乃こ家
▲湯舟い 舟こ家ホ きす舟い舟こ根ど
▲異陽 橋列こ 小屋こ家ホこ
結こ家こ家ぬ里野根ぬ家ぬ家ぬ又
家ぬ家こ家ぬこ家ぬ家ぬ家ぬ家ぬ
家ぬ家ぬこ家ぬ家ぬ家ぬ家ぬ家ぬ
○湯の家の雑湯ホ湯ホ湯ホ

かくハ成ものなれし何とも成ハ弦ハ
姫をとる弱乃ごとくなり
▲弱引弱逸　秋し月乃弱伝説
乃物使乃弱引ハ儀式ハ皆八月十
又月し切系乃弱甲斐乃弱引八月
十七日武蔵乃弱引上野乃弱引い
日九七日乃ごとく
▲弱ごつまづく　人ハ忘らるゝ人乃赤弱
いつまづく物しとゝり
▲こまうつり　万葉ゝ歌ゝ云葉拾
て芽芽ゝ芽ゝ芽ゝ

冬山流るゝ間も冬山流るゝ間も。夏かと

▲木乃葉　こ紅葉　打拾し

▲木乃葉の　こ霧結ぶ　秋し　麻目あ

▲木乃葉の　拾ひ　こ川乃水　ちりく

▲木乃葉の　こ紅葉　二句　俳諧　姫ど　拾ひ　紙

▲木乃葉の　可拾　面　二面し　夏か

▲木乃葉の　紅葉　拾風乃面　川　紅葉　面

▲木ちかき　[illegible]
き[illegible]るゆゑ[illegible]
▲木乃芽　同形し[illegible]
[illegible]式抄、同一木の芽一とゝ[illegible]
▲木玉　木玉　木又白　木二白　玉二又白
○[illegible]木玉[illegible]
樹神　木魅　[illegible]書し
▲木幡　木二又白　木二白　山城[illegible]
▲木坂乃月　木[illegible]乃[illegible]
▲梢　只一　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
▲梢に枝付[illegible]
▲梢に木乃字　木乃字二白。[illegible]
[illegible]
▲梢に秋付[illegible]

▲梢乃秋　重秋し[illegible]九月　木乃秋[illegible]
し[illegible]二白　紅葉[illegible]二白[illegible]
▲梢乃秋に[illegible]
▲梢乃友　[illegible]
[illegible]
▲心　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
▲ふの月　天[illegible]
ふ月[illegible]
ふの月[illegible]
ふ乃月[illegible]
[illegible]
▲ふの雪　天[illegible]
[illegible]
▲ふの友　人[illegible]
▲ふの松　松[illegible]
ふの[illegible]

麻の枝　枝一乃和し　種類二句麻の
枝乃和し　又　俗名乃麻も又　数多
しまた麻も色又もろ〳〵しまた麻も張り

▲麻乃葉　正和し　種類二句
○夏おそし　麻乃葉多やうもろ〳〵

▲麻乃枝　枝葉　山乃　枝乃
○もろ〳〵麻中の道の枝〳〵

▲麻の麻　麻中の道の枝〳〵
○もろ〳〵麻中の道の枝〳〵
○麻乃麻の麻乃麻の麻乃麻の麻乃麻
○麻乃麻の麻乃麻の麻乃麻の麻乃麻

又
○世ふ〳〵麻の麻乃麻の麻乃麻
山白の麻乃麻乃麻乃麻乃麻
へ麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻
和どもろ〳〵山乃麻乃麻乃麻
て麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻

▲麻乃麻　尺麻乃麻乃麻乃麻乃麻
○麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻

▲麻乃麻　麻乃麻乃麻乃麻乃麻
○麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻

▲麻乃麻　麻乃麻乃麻乃麻乃麻
○麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻

▲麻の麻　麻乃麻乃麻乃麻乃麻
○麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻

▲麻の麻　麻乃麻乃麻乃麻乃麻
○麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻

▲麻の麻　麻乃麻乃麻乃麻乃麻
○麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻

▲麻の麻　麻乃麻乃麻乃麻乃麻
○麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻

▲麻の麻　麻乃麻乃麻乃麻乃麻
○麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻

▲麻の麻　麻乃麻乃麻乃麻乃麻
○麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻乃麻

○家古郷乃先そなつかしさ　と云句二

○筏乃中代山をんなの名ゆく　仍助

▲ん乃光　おそろしきんし

▲ん乃火　ん乃名し因名し　勝の大の色

▲んなの　人のんなのんなの　と云句二

○月ふかくあれ物ゝ俤ふかく人のんなの　と云句二

○家ふも船ん分ぞ神ぞ　家祇

○うんん乃んなの　家祇

▲ん乃うう　一説ふんふく分と家のあ

らまゝ　と云句二

○ゆく春ん物ゝ春ゝ春ゝんなの　家祇

○物ゝ惜ゝ　と云句二

○物ゝ惜ゝ　家祇

○ゝ春ゝ春ゝ春

▲志 ニ　仏乃字二句　仏乃字の下に山野等を置く
▲九重　形二乃卯し　九重ニ置く
乃文ハ打し　祢社乃文ハ付句ニ露
▲九重ハ居ハ所ニ拙ど　名ハ所ニ面白
九りそ　九重乃し　形乃卯し
○宮ぢ　宮ぢ　宮ぢ　宮ぢ　宮ぢ　宮ぢ　宮ぢ　宮ぢ　宮ぢ　宮ぢ
▲九重ニ八重　福卯ど　九重ニ八重　八重霞卯ど　氏　九重ニ八重　八重霞卯ど　氏　九重ニ八重　八重霞卯ど　氏

▲小雪ニ　鶏ふすべし　前ハ付ふる句も
　ふる雪ハ　ぬとふる　油搾付ふる手ハ
　鶏ど不知し　紙色　搾ふれ　ふし
▲胡蝶ニ　小乃字一切ふ　胡ハ鬚し　小ハ訓ふ
▲胡蝶ニ　雪　綿て　形し　綿て　ハ　ふし
▲胡蝶乃　形章　ふし　搾蝶　章乃
　ふし　搾章　乃
▲胡蝶乃　義　荘周　義ふ蝶と　乃
　て百年ハ　花ふ　花　蝶　ふ　ハ
○百年ハ花ふ　ふて　ハ蝶乃　義ふ　義
○人ふ乃人　ふ　義　胡蝶と　理ふれ　と云句ニ
○推ふ　ふり　義れ　胡蝶と　ふん　ふ紙
▲ふてふ　ふし　潔蝶　ふ
▲来てふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
　ふし　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
○月ハ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

○来ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲こゝ　ふく　船　ふ　乃　ふし　夫ふ　ふ　ふし
　又往ニ　夫ふ　海ふ　入ふ　又　清　上ふて　接ふ
　吹ハ　夢乃　ふく　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
○こゝ　吹ハ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
○ふ　乃　夫や　夫ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲こゝ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲紙の字　ふし　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲紙ニ　紙　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
　も　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲紙　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲紙ニ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲紙乃白根　又甲斐乃白根ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲腰ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲腰ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

は面倒なし　是花を其字にとりて仮名

▲恋ひこ　者　者　者　如く二句なし

▲恋ひ　者　一　者　者　如く二句なし

者　者　山　山　山　山　山　山　仮名　仮名

▲恋ひして　恋ひしく　如くこそ　恋ひ

如り大　ふる　ふる　歌し　場し

▲恋ひこいふ　字乃　河　こ　又　恋ひこの字の　句

ふ場し　陸　れ　場　如く　こそ　樣　ふ場　如く

乃字し　陸も　樣も　乃　恋ひし　和州

▲恋　乃字　こ　こ　乃　恋　恋乃

こ　古里　こ　古里　こ　古里　こ　古里　こ　者　こ　恋　恋乃

二引　合　こ　こ　し　恋乃連　恋ひは　只　こ

▲恋ひし　恋ひし　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

こ　れ　ふ　ふ　及　こ　仍　恋ひし　こ　こ　こ

者　者　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

▲恋の句　逢　別　恋乃　歌い　者　二　こ　こ

▲恋の句　一句　あ　げ　句　こ　は　せ　ず　秋い

二句　ふ　こ　も　せ　こ　こ　し

▲恋の句に　繰り返し　字を二も　こ　べ

句付　繰　付　し　又　只　恋　句

▲恋の句に　繰　付　句　恋　句　句　句　句　句　句　句　句　句

句　恋　句　恋　句　恋　句　恋　句　恋　句　恋　句　恋　句　恋　句

只　恋　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋

▲恋に　迷情結　い　恋　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

○其外に　迷情に　句　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

▲恋に　命　こ　く　恋　こ　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋

▲恋に　こ　こ　句　こ　大　方　句　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

し　又　付　句　場　し　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋

も　恋　こ　句　べ　し

▲恋の　か　恋　こ　人　と　恋　わ　く　れ　て　及

び　く　け　く　く　方　も　句　恋　場　恋　入

や　ふ　ふ　ふ　ふ　と　か　こ　と　す　男　女　こ　ふ

こ　し　こ　こ　人　ふ　恋　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

恋　句　か　恋　句　句　句　句　句　句　句　句　句　句　句　句

や　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

▲恋の文に　恋　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

▲恵の世のまい・尺蠖逆歩行れの
世のまい乃裏面もなるべし
▲恵場に 恵二句 恵と恵のこと也也
▲恵もとゝふ 恵れてみつし時宜ごと
て二もるこゝろ是てふしたのふと云なし
▲恵乃奴 人偏し 横たち 又別名
○物恵乃ゆ。ひしゝゝと久恵に恵れ
いわくゝれてとたの物いゆゝ物ま
恵乃友よ物恵に恵ゝとし
▲恵乃 物恵と恵ど恵物たゝべし
物ゝ恵るかく物ゆゝあつゝ二句恵
▲恵乃ゆい 只恵乃つゝりゝるし恵に
恵ゝと又恵四の恵乃こゝもいゆし
○天ゆに恵の山りいゝゝ乃ゝゝゝ
ゝゝゝ源氏に恵も只恵れつゝりゝる
▲恵 のま 物恵ゝ恵ゝし物恵べし
○恵ゝゝ恵ゝゝもゝ恵ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ弘ゆも恵恵り

▲物恵と物ゝゝ乃恵ゝ恵恵ゝし
▲恵と恵ふゝゝ恵ゝ二句恵
▲恵り恵ゝ恵恵ゝゝ恵ゝ恵ゝ
ゝゝゝ恵ゝ恵恵ゝゝゝ恵ゝ恵ゝ
ゝゝ恵ゝ恵ゝゝゝ恵ゝゝゝ
▲物恵 物恵 物恵 物恵
恵ゝゝ恵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
八恵ゝゝ恵ゝゝゝゝゝゝゝゝ
▲物恵に 物二句 物恵 仍ゝ恵ゝし
物恵ゝゝ車乃恵ゝ恵恵ゝ
ゝゝし

○江

▲江 只一 恵ゝに一 ゝ上二て
▲江乃恵 恵乃恵ゝし 恵乃恵ゝゝゝゝ
○江乃恵ゝも自ゝゝ蓮恵恵 恵恵
▲江只恵 ゝ恵ゝし 物恵
▲江乃ゝ并 古并乃恵ゝし 大和国ゝ

▲枝　一　枝ゴ枝ゴ枝ゴ

▲元ぞ元ぬ　始元元ぬと云ふし
▲元も元ぬ　元元ぬ元元元

▲[illegible]・[illegible]
[illegible]

▲[illegible]
[illegible]

▲[illegible]
[illegible]

▲[illegible]す　[illegible]
[illegible]

▲[illegible]洗水　[illegible]
[illegible]

▲[illegible]
[illegible]

▲繋　[illegible]
[illegible]

▲[illegible]布
[illegible]

▲織の織布しさらす　[illegible]
[illegible]

▲丁周の義乃松　[illegible]
[illegible]

▲[illegible]
[illegible]

▲[illegible]
[illegible]

▲蜍　一　[illegible]
[illegible]

乃根ぶぐ所ぶ細し

▲蟬ニ菱付く所

▲蟬ニ鶴付る時長和遠し

▲蟬乃花ニ付く　とろろく形紋く高

乃稼ぐしをもとろろ不所能ろく

昌此五ろ形し

▲て多り　ニ　ろくとろ何勝のてニ多屋

▲形合乃てニまで　ろて　蝶　ホ多屋

▲て多り　下乃白ろい多白ニつし

仁多り同おろ。天ホニ多多白ろい

二も多ぐきろく此ニりとろく

度衣　第五終